

VIII クモ類

1 概要

豊田市は 2005 年に西加茂郡藤岡町・同小原村・東加茂郡足助町・同下山村・同旭町・同稲武町との合併により，新豊田市の面積は 918.32km² となり，県下の市町村で最大となった。以下，合併後の市町村はそれぞれ地区と表現する。それにより，最高地は稲武地区稲武町の標高 1,240m である（豊田市，2011）。この地域は面ノ木原生林特別保護区に指定され，天竜奥三河国定公園内にある。最低地は駒新町の標高 3.2m である（豊田市，2011）。以下，概要はそれぞれの地区毎に述べる。

2 調査方法

主な調査方法は「見つけ採り」「ビーティング」「スウィーピング」「シフティング」の 4 種類を用いた。採集した標本は実体顕微鏡を用いて同定を行った。

3 調査結果

豊田市で記録されたクモ類は 45 科 480 種であった。これは愛知県産 49 科 573 種（緒方，2014）の科に対し 91.83%，種に対し 83.77% に値する。科，種数とも県内で最も高い値であった。所属する種が 100% 確認できた科はジグモ科・カネコトタテグモ科・トタテグモ科・ヤマシログモ科・ヤギヌマグモ科・エンマグモ科・センショウグモ科・チリグモ科・カラカラグモ科・ヨリメグモ科・コツブグモ科・ピモサラグモ科・ジョロウグモ科・サシアングモ科・ササグモ科・ミヤマシボグモ科・シボグモ科・ハタケグモ科・ヤマトガケジグモ科・ツチフクログモ科・イツツグモ科・アワセグモ科の 22 科であった。中でもミヤマシボグモ科は本市以外から記録されていない。確認されなかったのはイトグモ科・ユアギグモ科・スオウグモ科・ガケジグモ科の 4 科であった（表 VIII-1 参照）。地区別に確認された科・種は表 VIII-2 に示すとおりである。

表 VIII-1 愛知県に対して本市における科別種数構成及び比率

番号	科名	愛知県産 種数	新豊田市		
			番号	種数	県に対する比率 (%)
1	ジグモ	2	1	2	100
2	カネコトタテグモ	1	2	1	100
3	トタテグモ	2	3	2	100
4	イトグモ	1	-	0	0
5	ヤマシログモ	1	4	1	100
6	マシラグモ	4	5	3	75
7	ヤギヌماغモ	1	6	1	100
8	ユウレイグモ	7	7	3	42.86
9	エンماغモ	2	8	2	100
10	タマゴグモ	6	9	5	83.33
11	センショウグモ	4	10	4	100
12	チリグモ	2	11	2	100
13	ウズグモ	7	12	5	71.43
14	ホラヒメグモ	3	13	2	66.67
15	ヒメグモ	77	14	67	87.01
16	カラカラグモ	3	15	3	100
17	ユアギグモ	1	-	0	0
18	ヨリメグモ	2	16	2	100
19	コツブグモ	3	17	3	100
20	ピモサラグモ	1	18	1	100
21	サラグモ	88	19	76	86.36
22	アシナガグモ	26	20	21	87.77
23	ジョロウグモ	1	21	1	100
24	コガネグモ	75	22	65	86.67
25	コモリグモ	30	23	26	86.67
26	サシアシグモ	1	24	1	100
27	キンダグモ	8	25	6	75
28	ササグモ	3	26	3	100
29	スオウグモ	1	-	0	0
30	ミヤマシボグモ	1	27	1	100
31	シボグモ	1	28	1	100
32	タナグモ	17	29	16	94.12
33	ナミハグモ	6	30	5	83.33
34	ウシオグモ	2	31	1	50
35	ハタケグモ	2	32	2	100
36	ハグモ	9	33	6	66.67
37	ガケジグモ	1	-	0	0
38	ヤマトガケジグモ	1	34	1	100
39	ツチフクログモ	5	35	5	100
40	イツツグモ	2	36	2	100
41	ウエムラグモ	3	37	2	66.67
42	フクログモ	18	38	17	94.44
43	ネコグモ	10	39	9	90
44	ワシグモ	23	40	17	73.91
45	アワセグモ	1	41	1	100
46	アシダカグモ	5	42	3	60
47	エビグモ	11	43	8	72.72
48	カニグモ	33	44	26	78.79
49	ハエトリグモ	59	45	49	83.05
合計	49	573	45	480	83.77

表 VIII-2 豊田市における地区別科別種数構成

番号	科名	新豊田市産 種数	地区別種類数						
			豊田	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
1	ジグモ	2	2	1	1	1	1	1	1
2	カネコトタテグモ	1	1	1	1	1	1	0	1
3	トタテグモ	2	2	2	1	1	1	1	1
4	ヤマシログモ	1	1	0	0	0	0	0	1
5	マシラグモ	3	2	1	1	3	0	1	1
6	ヤギヌماغモ	1	1	0	0	0	0	0	0
7	ユウレイグモ	3	3	2	1	2	1	1	2
8	エンماغモ	2	2	1	1	1	1	1	1
9	タマゴグモ	5	5	1	4	2	2	2	2
10	センショウグモ	4	4	1	2	2	1	2	1
11	チリグモ	2	2	1	1	1	1	1	1
12	ウズグモ	5	4	3	3	4	4	2	4
13	ホラヒメグモ	2	2	0	1	1	1	1	2
14	ヒメグモ	67	59	28	28	35	26	33	37
15	カラカラグモ	3	3	1	1	2	2	1	3
16	ヨリメグモ	2	2	0	0	2	1	1	1
17	コツブグモ	3	3	2	2	1	2	1	2
18	ビモサラグモ	1	1	1	1	1	1	1	1
19	サラグモ	76	59	18	30	31	38	27	47
20	アシナガグモ	21	18	9	11	15	10	9	13
21	ジョロウグモ	1	1	1	1	1	1	1	1
22	コガネグモ	65	57	28	28	47	31	26	40
23	コモリグモ	26	20	13	11	16	12	9	16
24	サシアシグモ	1	0	0	0	1	0	1	1
25	キシダグモ	6	6	1	3	3	5	4	4
26	ササグモ	3	3	2	1	1	2	1	3
27	ミヤマシボグモ	1	0	0	0	0	0	0	1
28	シボグモ	1	1	1	1	1	1	1	1
29	タナグモ	16	16	6	3	9	4	7	8
30	ナミハグモ	5	1	0	0	0	1	0	5
31	ウシオグモ	1	1	0	0	0	0	0	1
32	ハタケグモ	2	1	0	1	1	1	1	1
33	ハグモ	6	6	2	1	2	2	1	1
34	ヤマトガケジグモ	1	1	0	0	1	0	0	0
35	ツチフクログモ	5	5	3	1	3	2	2	3
36	イツツグモ	2	1	1	2	1	2	2	2
37	ウエムラグモ	2	1	0	0	1	0	1	1
38	フクログモ	17	14	1	2	5	3	3	10
39	ネコグモ	9	7	6	6	5	4	3	8
40	ワシグモ	17	15	5	6	7	3	4	7
41	アワセグモ	1	1	0	0	0	0	0	0
42	アシダカグモ	3	3	1	1	2	1	1	1
43	エビグモ	8	7	3	4	3	2	2	4
44	カニグモ	26	22	8	11	18	11	11	15
45	ハエトリグモ	49	43	20	25	29	19	17	27
	科合計	45	43	33	34	39	36	37	42
	種合計	480	409	175	198	263	201	184	284

4 各地区の調査結果

(1) 豊田地区

ア 概要

豊田地区の面積は 290.11km² で東部には六所山 (611m) と炮烙山 (683.5m) の 2 峰が対となし、北部には猿投山 (629m) がそびえている。矢作川を眼下に臨む野見山 (116.8m) や溪谷美を誇る王滝溪谷も自然度が高い。いずれも自然探索やハイキングの場として、四季を通じて市民が訪れる。河川も多く巴川・籠川・久保川・カ石川などは矢作川の支流である。逢妻女川・逢妻男川は合流し逢妻川となり、猿渡川も含めて境川に合流する。また、湿地やため池も点在する。

イ 調査結果

豊田地区で記録されたクモ類は、「豊田市自然環境基礎調査」(緒方, 2005b) のクモ目録を含めると 43 科 409 種であった(表 VIII-2 参照)。これは豊田市の 45 科 480 種の科に対し 95.56%、種に対し 85.2% に値する。中でも六所山は最もクモ相が豊かで、200 種が記録された。ロクショヤミサラグモ・オガタニッポンケシグモ・ミカワヤチグモは完模式標本の産地になっている。また、2011 年 4 月 5 日に発見したチクニフクログモは県初記録であった。原生林内のスギの樹皮からはハタケグモの一種を採集した。精査中で新種もしくは日本初記録の可能性が高い。同じく、県内でも産地が限られるコマツエンマグモが生息していた。落葉層には、県下でも 3 か所でしか確認されていないヤマトヤギヌマグモが生息した。王滝溪谷では県初記録のハラビロササヒメグモを 2009 年 4 月 30 日にオスを記録した。その後は岡崎市・豊橋市・新城市で相次いで確認された。また、キシノウエトタテグモやチクニドヨウグモなど貴重種が生息した。猿投山の広沢川に沿った歩道も、クモの観察にはふさわしいコースである。ヒメグモ科・サラグモ科・コガネグモ科・ハエトリグモ科など 180 種が記録された。矢作川の平戸橋下流左岸に位置する古岸水辺公園も 50 種を記録した。中でもほかの地域ではまれなキエビグモとメスジロハエトリは個体数も多く貴重な生息地になっている。他にも野見山・勘八の森・水源の森・トヨタの森なども観察地として適している。各地区から一地域を選び、参考資料としても役立つ意味も含めて、全種名を列挙する。

ウ 豊田市自然観察の森のクモ類

豊田市自然観察の森は東山町地内に位置し、標高 70～140m の丘陵地で、面積は 28.8ha。周辺地域を含めると 127.5ha である。開設から 20 年目となる 2010 年には新しいネイチャーセンターが完成し、観察路、観察小屋、展望台など施設も充実し、年間を通じて学習会、研究発表会、自然観察会が開催されている。筆者は 1991 年 6 月～2014 年 6 月 10 日まで定期的に調査を実施した。その結果、文献を含めると 28 科 144 種が記録された。これは、豊田地区 43 科 409 種の科では 65.1%、種では 35.2% に値する。愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種はカネコトタテグモ・キノボリトタテグモ・キジロオヒキグモ・コガネグモ(吉鶴ほか, 2011)・オオトリノフンダマシ(吉鶴ほか, 2011)・トリノフンダマシ(吉鶴ほか, 2011)・シロオビトリノフンダマシ(吉鶴ほか, 2011)・アカイロトリノフンダマシ(吉鶴ほか, 2011)・



写真 VIII-1 豊田市自然観察の森
(ヤブムラサキの交差点)
2012 年 2 月 24 日撮影

ワクトツキジグモ・ゲホウグモ（吉鶴ほか，2011）・カトウツケオグモ（吉鶴ほか，2011）の11種が記録された。これは、豊田地区24種の45.8%に値する。特に，2003年4月13日に採集されたワクトツキジグモはオス個体は県初記録である（杉山時雄氏採集，谷川明男博士同定）。国内でも記録は少なく希産種である。豊田市自然観察の森で記録されたクモ類は以下のとおりである。



写真 VIII-2 ワクトツキジグモ♂
2003年4月13日撮影

ジグモ科ジグモ，カネコトタテグモ科カネコトタテグモ，トタテグモ科キノボリトタテグモ，ユウレイグモ科ユウレイグモ，エンマグモ科ミヤグモ，タマゴグモ科アカハネグモ，センショウグモ科センショウグモ，オオセンショウグモ，ウズグモ科オウギグモ・マネキグモ・カタハリウズグモ・ヤマウズグモ，ヒメグモ科アシプトヒメグモ・シロカネイソウロウグモ・チリイソウロウグモ・オナガグモ・オダカグモ・ホシミドリヒメグモ・シモフリミジグモ・ヒシガタグモ・ムラクモヒシガタグモ・フタオイソウロウグモ・ツノナガイソウロウグモ・クロササヒメグモ・ツリガネヒメグモ・キヒメグモ・カグヤヒメグモ・ヒザプトヒメグモ・ニホンヒメグモ・コンピラヒメグモ・オオツリガネヒメグモ・オオヒメグモ・ハラダカツクネグモ・カニミジグモ・ムナボシヒメグモ・ヒゲナガヤリグモ・ヤリグモ・クロマルイソウロウグモ・ハンゲツオスナキグモ・スネグロオチバヒメグモ・バラギヒメグモ・ボカシミジグモ・シモフリミジグモ・コアカクロミジグモ・コケヒメグモ，カラカラグモ科ヤマジグモ，コツブグモ科ナンブコツブグモ，ピモサラグモ科アシヨレグモ，サラグモ科ザラアカムネグモ・ヨドテナガグモ・デーニツツサラグモ・コデーニツツサラグモ・マルムネヒザグモ・ニセアカムネグモ・アシナガサラグモ・ムネグロサラグモ・ヘリジロサラグモ・シロブチサラグモ・ユノハマサラグモ，アシナガグモ科オオシロカネグモ・コシロカネグモ・キララシロカネグモ・メガネドヨウグモ・ウロコアシナガグモ，ジョロウグモ科ジョロウグモ，コガネグモ科ハツリグモ・キジロオヒキグモ・イシサワオニグモ・アオオニグモ・マルヅメオニグモ・カラオニグモ・オニグモ・ムツボシオニグモ・コガネグモ・チュウガタコガネグモ・ナガコガネグモ・コガタコガネグモ・ヤマトカナエグモ・ギンメッキゴミグモ・ヤマゴミグモ・ゴミグモ・シマゴミグモ・ヨツデゴミグモ・マルゴミグモ・オオトリノフンダマシ・トリノフンダマシ・シロオビトリノフンダマシ・アカイロトリノフンダマシ・スズミグモ・トガリオニグモ・ワキグロサツマノミダマシ・ヤマシロオニグモ・サツマノミダマシ・ワクトツキジグモ・カラフトオニグモ・ゲホウグモ，コモリグモ科フジイコモリグモ・ハラクロコモリグモ・ウヅキコモリグモ・ハリゲコモリグモ・クラークコモリグモ・イモコモリグモ・チビコモリグモ，キシダグモ科スジアカハシリグモ・イオウイロハシリグモ，ササグモ科ササグモ，シボグモ科シボグモ，タナグモ科クサグモ・コクサグモ・ホラズミヤチグモ・ギフヤチグモ，ツチフクログモ科ヤマトコマチグモ・ヤサコマチグモ・イタチグモ，フクログモ科ヤマトフクログモ・ヤハズフクログモ，ネコグモ科ネコグモ，ワシグモ科フタホシテオノグモ，アシダカグモ科コアシダカグモ，エビグモ科キンイロエビグモ・キハダエビグモ・アサヒエビグモ・ヤドカリグモ・シャコグモ，カニグモ科コハナグモ・ハナグモ・ワカバグモ・カトウツケオグモ・アズチグモ・セマルトラフカニグモ・ヤミイロカニグモ，ハエトリグモ科ヤマジハエトリ・マミジロハエトリ・マミクロハエトリ・ウデプトハエトリ・エキスハエトリ・オオハエトリ・シラヒゲハエトリ・ヤサアリグモ・アリグモ・チャイロアサヒハエトリ・デーニツツ

ハエトリ・ヒメカラスハエトリ・キレワハエトリ・アオオビハエトリの 28 科 144 種であった。

(2) 藤岡地区

ア 概要

藤岡地区の面積は 65.58km² で北部には岐阜県土岐市との境に三国山 (701m) を臨む。同地区は湿地が多いのも特徴の一つである。大岩町・石飛町・深見町・藤岡飯野町・上川口町などに点在する。河川では矢作川の支流である犬伏川や飯野川には多くの細流が流れ込む。

イ 調査結果

藤岡地区で記録されたクモ類は 33 科 175 種であった (表 VIII-2 参照)。これは豊田市の 45 科 480 種の科に対し 73.33%、種に対し 36.46% に値する。湿地に限り生息するテジロハリゲコモリグモは県絶滅危惧に指定されている。幾つかの湿地を調査したが確認にいたらなかった。岡崎市でも確認しているので残念に思っている。県緑化センター内では環境省と愛知県で絶滅危惧に指定されているキシノウエトタテグモが確認された。本市では王滝溪谷に次ぐ生息地である隣接する昭和の森もクモの観察に適している。猿投山の東側裾野にあたる西中山町では林道沿いに水田やため池もありクモ相は豊かであった。カネコトタテグモ・キノボリトタテグモ・アカイロトリノフンダマシなど貴重な種を記録した。

ウ 旧めぐみの森キャンプ場のクモ類

旧めぐみの森キャンプ場は西市野々町地内に位置し、標高 450~510m で管理棟付近は 468m である。敷地内にはテント・バンガロー・ロッジ・炊事場など宿泊施設や遊歩道には東屋や展望台も整備されていたが、施設の老朽化により 2011 年 3 月に閉場になる。豊田市との合併前の名称は「郡民の森」として運営されていた。調査日は 2009 年 7 月 4 日、2011 年 9 月 24 日、2013 年 4 月 5 日の延べ 3 回実施した。その結果、24 科 76 種を記録した。これは、藤岡地区 33 科 175 種の科では 72.7%、種では 43.4% に値する。



写真 VIII-3 旧めぐみの森キャンプ場
2009 年 7 月 4 日撮影

愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種ではニシキオニグモの 1 種が記録された。注目に値する種としてはイワテハエトリが挙げられる。県内では足助地区大多賀町で記録されているだけである。旧めぐみの森キャンプ場で記録されたクモ類は以下のとおりである。

ジグモ科ジグモ、**ユウレイグモ科**ユウレイグモ、**タマゴグモ科**アカハネグモ、**センショウグモ科**センショウグモ、**チリグモ科**ヒラタグモ、**ウズグモ科**オウギグモ・マネキグモ・ヤマウズグモ、**ヒメグモ科**オナガグモ・ホシミドリヒメグモ・カレハヒメグモ・フタオイソウロウグモ・オオヒメグモ・ハラダカツクネグモ・カニミジグモ・ムナボシヒメグモ・ヒゲナガヤリグモ・ヤリグモ・クロマルイソウロウグモ・ボカシミジグモ、**ピモサラグモ科**アシヨレグモ、**サラグモ科**サイトウヌカグモ・タテヤマテナガグモ・アシナガサラグモ・ムネグロサラグモ・ユノハマサラグモ、**アシナガグモ科**オオクマヒメドヨウグモ・キンヨウグモ・メガネドヨウグモ、**ジョロウグモ科**ジョロウグモ、**コガネグモ科**ハツリグモ・アオオニグモ・ニシキオニグモ・オニグモ・コガタコガネグモ・ギンメッキゴミグモ・キジロゴミグモ・ヤマゴミグモ・ゴミグモ・ヨツデゴミグモ・

マルゴミグモ・サガオニグモ・カラフトオニグモ、**コモリグモ科**クラークコモリグモ、**タナグモ科**クサグモ・コクサグモ・ヤハギヤチグモ・チュウブヤチグモ、**ハグモ科**カレハグモ、**ツチフクログモ科**イタチグモ、**イツツグモ科**イツツグモ、**フクログモ科**ヤギヌマフクログモ、**ネコグモ科**コムラウラシマグモ・ネコグモ、**ワシグモ科**フタホシテオノグモ・メキリグモ・ヤマトフトバワシグモ・クロチャケムリグモ、**アシダカグモ科**コアシダカグモ、**エビグモ科**アサヒエビグモ、**カニグモ科**コハナグモ・クマダハナグモ・アマギエビスグモ・ワカバグモ・ガザミグモ・アズチグモ、**ハエトリグモ科**ウデブトハエトリ・ジャバラハエトリ・アリグモ・デーニツツハエトリ・イワテハエトリ・カラスハエトリ・ナカヒラハエトリ・ウススジハエトリ・ムツバハエトリの24科76種であった。



写真 VIII-4 ニシキオニグモ♀
2011年9月24日撮影

(3) 小原地区

ア 概要

小原地区の面積は74.54km²で登山に適した山は見当たらないが、北部には大ケ蔵連国有林、南部に船ヶ沢国有林と百月国有林がある。河川では矢作川の支流である田代川が本地区の中央を流れている。白山神社などの境内にはスギ・ヒノキ・モミなど古木が保護され、シキザクラで有名な城跡や公園など名勝地も多い。

イ 調査結果

小原地区で記録されたクモ類は34科198種であった(表 VIII-2 参照)。これは豊田市の45科480種の科に対し75.56%、種に対し41.25%に値する。観察に適した地域も多く、大ケ蔵連国有林では30種を、和紙のふるさとでは73種を記録した。中でもモンシロコゲチャハエトリは田原市・新城市に次ぐ記録であった。県初記録種は1988年5月14日に小原町で採集したサラグモ科の不明種は、その後の精査でフタエツノヌカグモと同定された。

ウ 百月国有林のクモ類

小原地区の百月町地内に位置する百月国有林は、矢作川本流の北方、その支流李川の東方にあたる。標高220~312mで、林道沿いには幾つもの沢やため池もある。調査日は2012年5月14日、2012年10月27日の延べ2回実施した。その結果、24科74種を記録した。これは、藤岡地区34科198種の科では70.6%、種では37.4%に値する。愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種ではカネコトタゲグモの1種が記録された。注目に値する種としては以下の種が挙げられる。クスマダニグモは徘徊性で落葉層に生息する。県内では名古屋市熱田区、日進市藤島町、同岩崎町、豊田市広幡町、同花本町で記録されているが、いずれも個体数は1~3頭である。ダンダラオニグモの県初記録は、1991年5月5日に北設楽郡設楽町神田で筆者がメスを採集した(谷川明男博士同定)。今回はそれに次ぐ記



写真 VIII-5 百月国有林内
2012年5月14日撮影

録で、オスの採集は初記録である。国内でも記録は非常に少なく、本県が分布の北限にあたる。アカガネウラシマグモは徘徊性で地表や落葉層に生息する。県内では豊田市（小原地区・稲武地区）以外からは記録されていない。百月国有林で記録されたクモ類は以下のとおりである。



写真 VIII-6 ダンダラオニグモ♂
2012年5月14日撮影

ジグモ科ジグモ、カネコトタテグモ科カネコトタテグモ、マシラグモ科アイチマシラグモ、エンマグモ科ミヤグモ、タマゴグモ科クスミダニグモ・ダニグモ・オキツハネグモ・アカハネグモ、ウズグモ科オウギグモ・ヤマウズグモ、ホラヒメグモ科コホラヒメグモ、ヒメグモ科オナガグモ・シラホシオオノヒメグモ・ムラクモヒシガタグモ・ツリガネヒメグモ・カニミジグモ・ヒゲナガヤリグモ・スネグロオチバヒメグモ、カラカラグモ科カラカラグモ・コツブグモ科ナンブコツブグモ、サラグモ科ザラアカムネグモ・ヒメウスイロサラグモ・デーニッツサラグモ・コデーニッツサラグモ・クスミサラグモ・アシナガサラグモ・ムネグロサラグモ・ナラヌカグモ・ホソテゴマグモ・カワグチココナグモ・アイチアリマネグモ・オオイオリヒメサラグモ・ユノハマサラグモ・サラグモ科の一種、アシナガグモ科メガネドヨウグモ・エゾアシナガグモ、コガネグモ科ハツリグモ・オオクマヤミイロオニグモ・アオオニグモ・オニグモ・チュウガタコガネグモ・ギンメッキゴミグモ・ギンナガゴミグモ・クマダギンナガゴミグモ・ヨツデゴミグモ・ダンダラオニグモ・シロスジショウジョウグモ・ゴマジロオニグモ・サガオニグモ、コモリグモ科ヤマハリゲコモリグモ・クラークコモリグモ、キシダグモ科アオグロハシリグモ・スジアカハシリグモ、タナグモ科ホラズミヤチグモ、シボグモ科シボグモ、ハタケグモ科ハタケグモ、ハグモ科ムツメカレハグモ、ツチフクログモ科イタチグモ、ネコグモ科オトヒメグモ・コムラウラシマグモ・アカガネウラシマグモ、ワシグモ科フタホシテオノグモ、アシダカグモ科コアシダカグモ、カニグモ科コハナグモ・チクニエビスグモ、ハエトリグモ科ヤマジハエトリ・マツモトハエトリ・カタオカハエトリ・マミジロハエトリ・ウデブトハエトリ・コガタネオンハエトリ・チャイロアサヒハエトリ・デーニッツハエトリ・ヒメカラスハエトリ・アオオビハエトリの 25 科 74 種であった。

(4) 足助地区

ア 概要

足助地区の面積は 193.27km² で東部には本地区最高峰の寧比曾岳（1120.6m）があり、東海自然歩道が通っている。その西部には筈ヶ岳（985.2m）がある。南部には十明山（571.8m）が独立する。河川では、北部に矢作川支流の阿摺川が流れている。東南部には神越川が大見川と合流し、足助川も巴川に合流する。巴川は矢作川の支流で最も水量は豊かである。大多賀町と御内町には湿原があり貴重な植物が自生する。

イ 調査結果

足助地区で記録されたクモ類は 39 科 263 種であった（表 VIII-2 参照）。これは豊田市の 45 科 480 種の科に対し 86.67%、種に対し 54.79%に値する。観察に適した地域も多く、明川町の旧いこいの村愛知周辺では 61 種を記録した。中でもモリズミマシラグモは県初記録種であった。神越川の源流部には金沢段戸国有林がある。スギ・ヒノキの人工林が占めているが 18 種を記録

した。また、足助川沿いの川面町や上八木町の車道沿いの林縁部にもクモ類は豊富であった。

ウ 田之土里湿原のクモ類

足助地区の田之土里湿原は御内町地内に位置し、県道367号線の東方で下山地区梨野町と隣接する。2.78haが県自然環境保全地域に指定され、うち0.15haが野生動植物保護になっている。湿原の標高は約654mである。調査日は2008年4月19日、同9月6日、同9月10日、2009年7月19日、同11月11日、2011年9月10日、同9月28日、2012年10月27日、2014年7月16日の延べ9回実施した。その結果、周辺部を含めて24科74種を記録した。これは、足助地区39科263種の科では61.9%、種では20.4%に値する。愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種ではオオトリノフンダマシ（周辺部）・トリノフンダマシ（周辺部）・ミナミコモリグモ（湿地内）の3種が記録された。なお、湿地内にはイシサワオニグモ・キララシロカネグモ・コガネグモダマシ・イナズマクサグモなど25種を確認した。注目に値する種では愛知県初記録のチビケムリグモが挙げられる。2008年4月19日にオスを採集した。田之土里湿原で記録されたクモ類は以下のとおりである。



写真 VIII-7 田之土里湿原
2009年7月19日撮影



写真 VIII-8 ミナミコモリグモ♀
2014年7月16日撮影

ウズグモ科オウギグモ・ヤマウズグモ、**ヒメグモ科**オナガグモ・コガネヒメグモ・ムラクモヒシガタグモ・カグヤヒメグモ・ニホンヒメグモ・コンピラヒメグモ・カニミジグモ・ムナボシヒメグモ・ボカシミジグモ・コアカクロミジグモ、**コツブグモ科**ナンブコツブグモ、**カラカラグモ科**カラカラグモ、**ピモサラグモ科**アシヨレグモ、**サラグモ科**ザラアカムネグモ・ヒメウスイロサラグモ・デーニツツサラグモ・コーデニツツサラグモ・タテヤマテナガグモ・クスマサラグモ・アシナガサラグモ・ツノケシグモ・ヒロテゴマグモ・ミノブコヌカグモ・ユノハマサラグモ・アトグローアカムネグモ・サラグモ科の一種、**アシナガグモ科**オオシロカネグモ・コシロカネグモ・キララシロカネグモ・タニマノドヨウグモ・ヤサガタアシナガグモ・アシナガグモ、**ジョロウグモ科**ジョロウグモ、**コガネグモ科**オオクマヤミイロオニグモ・イシサワオニグモ・アオオニグモ・ヤマオニグモ・オニグモ・ナガコガネグモ・ギンメッキゴミグモ・カラスゴミグモ・ゴミグモ・ヨツデゴミグモ・オオトリノフンダマシ・トリノフンダマシ・コガネグモダマシ・ワキグロサツマノミダマシ・サガオニグモ・カラフトオニグモ、**コモリグモ科**イナダハリゲコモリグモ・ハリゲコモリグモ・ミナミコモリグモ、**キシダグモ科**アオグロハシリグモ・スジアカハシリグモ・イオウイロハシリグモ、**シボグモ科**シボグモ、**タナグモ科**イナズマクサグモ・コクサグモ、**ハグモ科**ムツメカレハグモ、**イツツグモ科**イツツグモ、**ネコグモ科**ネコグモ、**ワシグモ科**ヨツボシワシグモ・チビケムリグモ、**カニグモ科**コハナグモ・ハナグモ・アマギエビスグモ・ワカバグモ・マツモトオチバカニグモ・フノジグモ・ゾウシキカニグモ、**ハエトリグモ科**ネコハエトリ・マミジロハエトリ・ヤハズハエトリ・ネオンハエトリ・デーニツツハエトリ・カラスハエトリ・ウススジハエトリの19科79種であった。

(5) 下山地区

ア 概要

下山地区の面積は 114.18km² で登山に適した山は見当たらないが、林道村山線や和合黒坂線など幾つも林道が走っている。河川では、南東部には三河湖があり巴川の上流部にあたる。東部を流れる野原川も巴川の支流である。東大林町地内には牧場やキャンプ場があり、周囲には小規模だが湿地やため池もある。

イ 調査結果

下山地区で記録されたクモ類は 36 科 201 種であった (表 VIII-2 参照)。これは豊田市の 45 科 480 種の科に対し 80.0%，種に対し 41.86% に値する。人工林でもスギ林の林床には 4~50 種のクモが生息していた。主にヒメグモ科やサラグモ科のクモで、体長 1~2mm の種が多かった。2014 年 3 月 19 日に蘭町で採集したヤマジコナグモは県初記録であった。水田のクモは害虫退治に一役買っている。下山田代町の水田地帯ではヒメアシナガグモ・ニセアカムネグモ・セスジアカムネグモ・キバラコモリグモなど 16 種を確認した。中でもコブケシグモは本市では本地区のみの記録であった。

ウ 林道和合黒坂線のクモ類

下山地区の林道和合黒坂線は和合町の国道 473 号線から黒坂町の国道 301 号に至る総延長約 8km の林道である。主な調査地は和合町地内で調査距離は約 2.5km、標高 520~550m 間である。調査日は 2008 年 5 月 8 日、2009 年 8 月 30 日、2011 年 8 月 3 日、2013 年 1 月 24 日、2014 年 6 月 15 日の延べ 5 回実施した。その結果、19 科 79 種を記録した。これは、下山地区 36 科 200 種の科では 52.8%，種では 39.5% に値する。愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種ではコガネグモの 1 種が記録された。注目に値する種では以下の 2 種が挙げられる。シナノアシナガグモは山地性で足助地区、豊橋市、新城市 (旧鳳来町)、北設楽郡設楽町で記録されているが、個体数は非常に少ない。ミカワヤチグモに関しては次章「6 豊田市で確認された特筆すべき種」で述べる。黒坂町和合黒坂林道で記録されたクモ類は以下のとおりである。

ジグモ科ジグモ、**センシヨウグモ科**センシヨウグモ・**ウズグモ科**マネキグモ・ヤマウズグモ、**ヒメグモ科**アシプトヒメグモ・トビジロイソウロウグモ・フタオイソウロウグモ・ツノナガイソウロウグモ・ニホンヒメグモ・コンピラヒメグモ・ムナボシヒメグモ・ヒゲナガヤリグモ・ヤリグモ・バラギヒメグモ・ボカシミジグモ・コアカクロミジグモ、**カラカラグモ科**カラカラグモ、**サラグモ科**サイトウヌカグモ・コサラグモ・デーニツツサラグモ・クロナンキングモ・チビサラグモ・アシナガサラグモ・ムネグロサラグモ・ヘリジロサラグモ・ヒメヨツボシサラグモ・ユノハマサラグモ・アトグロアカムネグモ、**アシナガグモ科**オオシロカネグモ・コシロカネグモ・メガネドヨウグモ・ヤサガタアシナガグモ・アシナガグモ・シナノアシ



写真 VIII-9 林道和合黒坂線
2013 年 1 月 24 日撮影



写真 VIII-10 シナノアシナガグモ
2008 年 5 月 8 日撮影

ナガグモ・エゾアシナガグモ、**コガネグモ科**ハツリグモ・オオクマヤミイロオニグモ・ヤマオニグモ・コガネグモ・チュウガタコガネグモ・ヤマトカナエグモ・ギンメッキゴミグモ・カラスゴミグモ・ゴミグモ・ヨツデゴミグモ・トガリオニグモ・シロスジシヨウジョウグモ・サガオニグモ・カラフトオニグモ、**コモリグモ科**ヒノマルコモリグモ・ヤマハリゲコモリグモ、**キシダグモ科**アオグロハシリグモ・アズマキシダグモ、**ササグモ科**ササグモ、**シボグモ科**シボグモ、**タナグモ科**クサグモ・コクサグモ・ミカワヤチグモ・ヤマヤチグモ、**ハグモ科**カレハグモ、**ツチフクログモ科**アシナガコマチグモ、**イツツグモ科**イツツグモ、**フクログモ科**ヤハズフクログモ・トビイロフクログモ、**ネコグモ科**ネコグモ、**ワシグモ科**クロチャケムリグモ、**エビグモ科**アサヒエビグモ・シャコグモ、**カニグモ科**アマギエビスグモ・ワカバグモ・トラフカニグモ・ヤミイロカニグモ、**ハエトリグモ科**マミジロハエトリ・ジャバラハエトリ・エクスハエトリ・アリグモ・デーニツツハエトリ・ヒメカラスハエトリの 22 科 78 種であった。

(6) 旭地区

ア 概要

旭地区の面積は 82.16km² で北東部の牛地町地内に駒山 (867m) があり、ブナの巨木は天然記念物に指定されている。北部の時瀬町地内の城山森林公園や小滝野町地内の旭高原元気村などは、落葉広葉樹が広範囲に残されている。東海自然歩道も旭高原元気村を通り、閑羅瀬町の矢作第一ダムの近くを通過し、更に岐阜県へと延びている。この東海自然歩道に沿うよう愛知高原国定公園に指定されている。河川では、矢作川の支流で介木川が小渡町で合流する。更に上流部に県下最大級の奥矢作湖があり、北設楽郡設楽町段戸山を源とする段戸川もこのダム湖に注ぐ。対岸は岐阜県恵那市である。

イ 調査結果

旭地区で記録されたクモ類は 37 科 184 種であった (表 VIII-2 参照)。これは豊田市の 45 科 480 種の科に対し 82.22%、種に対し 38.33% に値する。駒山の山頂近くには小馬寺は本堂も山門も廃墟となっているが、境内周辺は自然度が高く 68 種を記録した。中でも 2000 年 6 月 4 日に発見したシノビグモは奥山の源流付近のみ生息する、本地区では唯一の記録であった。しかし、2008 年の調査では発見にいたらず、大雨による生息地の破壊で絶滅した可能性も考えられる。旭高原元気村にはミカワヤチグモが生息した。豊田地区六所山での発見により 2009 年に新種となった種で、極めて狭い範囲に分布するものと思われる。

ウ 伊熊神社社叢のクモ類

旭地区の伊熊神社社叢は伊熊町地内に県道 490 号線の南方に位置する。2.78ha が県自然環境保全地域に指定されている。総面積 2.63ha で神社周辺部 1.25ha と神社北部 0.24ha が野生動物保護区になっている。普通地区を含めた標高は 500~561m である。調査日は 2009 年 9 月 2 日、2013 年 5 月 16 日、同 6 月 18 日、同 12 月 5 日、2014 年 5 月 30 日、同 9 月 27 日の延べ 6 回実施した。その結果、29 科 113 種を記録した。これは、旭地区 37 科 185 種の科では 78.4%、種では 61.1% に値する。愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種ではキノボリトタテグモ・アカイロトリノフンダマシ・アシナガカニグモの 3 種が確認された。注目に値する種では以下の 4 種が挙げられる。リュウキュウヒメグモは造網性で不規則網を張る。県内では未発見であったが、2009

年9月2日の調査でメス6頭を確認し、うち4頭は卵のう
を作っていた。その後、足助地区・日進市・豊橋市で記録
された。シロホシヒメグモ・コガタコノハグモ・ヤマハタ
ケグモの3種に関しては次章「6 豊田市で確認された特
筆すべき種」で述べる。伊熊神社社叢林で記録されたクモ
類は以下のとおりである。

ジグモ科ジグモ、トタテグモ科キノボリトタテグモ、ユ
ウレイグモ科ユウレイグモ、エンマグモ科ミヤグモ、タマ
ゴグモ科ダニグモ・アカハネグモ、センショウグモ科ハラ
ビロセンショウグモ・センショウグモ、チリグモ科チリグ
モ・ヒラタグモ、ウズグモ科マネキグモ・カタハリウズグ
モ・ヤマウズグモ、ヒメグモ科トビジロイソウロウグモ・
ホシミドリヒメグモ・コガネヒメグモ・カレハヒメグモ・
コガタコノハグモ・ヒシガタグモ・ムラクモヒシガタグ
モ・フタオイソウロウグモ・クロササヒメグモ・ツリガネ
ヒメグモ・ニホンヒメグモ・コンピラヒメグモ・リュウキ
ュウヒメグモ・オオツリガネヒメグモ・オオヒメグモ・ハ
ラダカツクネグモ・ツクネグモ・アマミジジグモ・ムナ
ボシヒメグモ・スネグロオチバヒメグモ・ボカシミジジグ
モ・マダラミジジグモ・コアカクロミジジグモ、カラカラグモ科カラカラグモ、コツブグモ科ナ
ンブコツブグモ、コツブグモの一種、ピモサラグモ科アシヨレグモ、サラグモ科サイトウヌカグ
モ・ザラアカムネグモ・ヒメウスイロサラグモ・チビクロマルハラカタグモ・デーニッツサラグ
モ・コデーニッツサラグモ・カイホツズキンヌカグモ・ノコバヤセサラグモ・タテヤマテナガグ
モ・コアカサナダグモ・チビサラグモ・シバサラグモ・アシナガサラグモ・ムネグロサラグモ・
オガタニッポンケシグモ・カワグチココナグモ・ミノブコヌカグモ・アイチアリマネグモ・ユノ
ハマサラグモ・オオクマコブヌカグモ・カントウヒゲヌカグモ・サラグモ科の一種、アシナガ
モ科オオクマヒメドヨウグモ・キララシロカネグモ、ジョロウグモ科ジョロウグモ、コガネグモ
科ハツリグモ・アオオニグモ・ムツボシオニグモ・ムシバミコガネグモ・ナガコガネグモ・ヤマ
トカナエグモ・ギンメッキゴミグモ・ギンナガゴミグモ・ゴミグモ・ヨツデゴミグモ・アカイロ
トリノフンダマシ・トゲグモ・シロスジショウジョウグモ・サガオニグモ・カラフトオニグモ、
コモリグモ科フジイコモリグモ・チビコモリグモ、シボグモ科シボグモ、タナグモ科コクサグモ・
カメンヤチグモ・ヤハギヤチグモ、ハタケグモ科ヤマハタケグモ、ハグモ科ムツメカレハグモ、
ツチフクログモ科イタチグモ、イツツグモ科ナガイツツグモ・イツツグモ、ウエムラグモ科カム
ラタンボグモ、フクログモ科ヤギヌマフクログモ・ウコンフクログモ・フクログモ科の一種、ネ
コグモ科ウラシマグモ・ネコグモ、ワシグモ科ヤマヨリメケムリグモ・ナミトンビグモ、アシダ
カグモ科コアシダカグモ、エビグモ科アサヒエビグモ・シャコグモ、カニグモ科キハダカニグモ・
コハナグモ・アシナガカニグモ・アマギエビスグモ・ワカバグモ・ニッポンオチバカニグモ・チ
クニエビスグモ・トラフカニグモ・ヤミイロカニグモ、ハエトリグモ科ウデブトハエトリ・ジャ
バラハエトリ・エクスハエトリ・アリグモ・ネオンハエトリ・デーニッツハエトリ・ヒメカラス
ハエトリ・ナカヒラハエトリ・キレワハエトリ・ムツバハエトリの29科113種であった。



写真 VIII-11 伊熊神社社叢林
2013年5月16日撮影



写真 VIII-12
リュウキュウヒメグモ♀
県初記録となった
2012年9月2日撮影

(7) 稲武地区

ア 概要

稲武地区の面積は 98.63km² で南東部の稲武町地内に面ノ木原生林があり、県下屈指のブナ林で面ノ木原生林特別保護区に指定されている。南部には城ヶ山 (918m) と北設楽郡設楽町との境に内平山 (802.5m) など山並みが連なる。河川では、矢作川本流は上流部となり、野入川や名倉川が合流する。南西部には黒田貯水湖があり、近くに貴重な湿地が保全されている。

イ 調査結果

稲武地区で記録されたクモ類は、「稲武町史 資料編 クモ類」(緒方, 1996a) の目録を含めると 42 科 284 種であった(表 VIII-2 参照)。面ノ木原生林は 1,000m を超える温帯林で、クモ類は 87 種を記録した。北方系要素の強いアズミヤセサラグモ・コウシサラグモ・シバサラグモ・シノビグモなど貴重種が生息していた。西部には月ヶ平 (983m) があり、天然林の林床には徘徊種のミヤマシボグモモドキやモリコモリグモなど県内希種が生息していた。北部の大野瀬町地内池ヶ平は長野県根羽村と隣接し、やはり北方系要素の強いシロタマヒメグモやアサヒハエトリなど記録した。富永町地内の名古屋市や学習センター周辺もクモ類は豊富であった。

ウ タカドヤ湿地のクモ類

稲武地区のタカドヤ湿地は小田木町地内の県道 153 号線の小田木信号より右折し、黒田貯水湖に至る途中に位置する。湿地の上部ため池で 2 か所の堰堤で区切られている。歩道や木道が整備されていて一周することができる。標高約 850m である。調査日は 2010 年 5 月 5 日、同 6 月 17 日、2012 年 10 月 21 日、2014 年 6 月 23 日の延べ 4 回実施した。その結果、18 科 52 種を記録した。これは、稲武地区 42 科 284 種(文献含む)の科では 42.9%、種では 18.3% に値する。愛知県絶滅危惧第三次リストに掲載された種は確認されなかった。注目に値する種では以下の 3 種が挙げられる。クロササヒメグモは造網性で湿地や湿潤地に生息する。豊田地区・小原地区・旭地区・日進市・岡崎市・豊橋市・新城市で記録されているが、どの地域でも個体数は少なかった。また、オスは未採集であったが 2014 年 6 月 23 日の調査で得ることができた。分布が限られる種ではコガタコモリグモが挙げられる。本種は山地性で本市と北設楽郡で記録があるだけである。本市では足助地区・稲武地区で確認した。

県内におけるヤガタハエトリの記録は非常に少なく、豊川市で 1 例、北設楽郡設楽町(旧津具村)で 1 例、北設楽郡豊根村(旧富山村)で 1 例の合計 3 例しかない。本調査では 2010 年 5 月 5 日に雌雄 4 頭を確認した。タカドヤ湿地で記録されたクモ類は以下のとおりである。

ジグモ科ジグモ。ユウレイグモ科ユウレイグモ。エンマグモ科ミヤグモ。ヒメグモ科クロササヒメグモ・ツリガネヒメグモ・スネグロオチバヒメグモ・コケヒメグモ。カラカラグモ科カラカラグモ。ピモサラグモ科アシヨレグモ。サラグモ科チビサラグモ・アシナガサラグモ・ムネグロサ



写真 VIII-13 タカドヤ湿地
2010 年 5 月 5 日撮影



写真 VIII-14 ヤガタハエトリ♂
2010 年 5 月 5 日撮影

ラグモ・ヘリジロサラグモ・ナラヌカグモ・ユノハマサラグモ・アトグロアカムネグモ、**アシナガグモ科**オオシロカネグモ・キララシロカネグモ・メガネドヨウグモ・ヤサガタアシナガグモ・アシナガグモ・エゾアシナガグモ、**ジョロウグモ科**ジョロウグモ、**コガネグモ科**オオクマヤミイロオニグモ・マメオニグモ・カラフトオニグモ・コオニグモモドキ、**コモリグモ科**フジイモリグモ・ヒノマルコモリグモ・ヤマハリゲコモリグモ・クラークコモリグモ・イモコモリグモ・チビコモリグモ・コガタコモリグモ、**シボグモ科**シボグモ、**ツチフクログモ科**イタチグモ、**フクログモ科**イナフクログモ、**ネコグモ科**コムラウラシマグモ・キレオビウラシマグモ・ウラシマグモ、**ワシグモ科**ヨツボシワシグモ、**カニグモ科**コハナグモ・アマギエビスグモ・ヤミイロカニグモ・チュウカカニグモ、**ハエトリグモ科**マミジロハエトリ・ジャバラハエトリ・オオハエトリ・デーニッツハエトリ・ヤガタハエトリ・キレワハエトリの18科52種であった。

5 豊田市を模式標本の産地とする種

(1) アイチマシラグモ *Falcileptoneta aichiensis* Irie & Ono

筆者の標本をもとに、入江照雄氏、小野展嗣博士により 2007 年に新種記載された (Irie and Ono, 2007). 完模式標本の産地は瀬戸市惣作町, 副模式標本の産地は豊田市稲武町川手城ノ上である.

体長雌雄 1.7mm 前後. 雌雄背甲は黄褐色で腹部は淡黄褐色. 山地の朽ち木や落葉層に生息する. 豊田市では豊田地区・藤岡地区・小原地区・足助地区・旭地区・稲武地区で記録されている. 県内では名古屋市・瀬戸市・岡崎市で記録されている. 国内では三重県で記録された.



写真 VIII-15 アイチマシラグモ
富永町 2012 年 3 月 11 日撮影

(2) ゴマフコツブグモ *Mysmena nojimai* Ono

小野展嗣博士により 2010 年に新種記載された (Ono, 2010). 完模式標本の産地は岡山県津山市. 副模式標本の産地は豊田市坂上町(六所山)で, 筆者が 2009 年 10 月 18 日に採集したメスである. 県内からオスは未採集である.

体長メス 0.89mm, オス 0.87mm. メス背甲は黄褐色. 腹部は淡黄褐色で多数の黒斑がある. 山地性で枝葉のピーティングで得られる. 豊田市では上記の豊田地区で記録されている. 県内では豊川市財賀寺町・岡崎市鉢地町で記録されている. 国内では三重県・岡山県で記録された.



写真 VIII-16
ゴマフコツブグモの生息地
坂上町六所山 2014 年 5 月 6 日撮影



写真 VIII-17 ゴマフコツブグモ♀
坂上町六所山 2009 年 10 月 18 日撮影
副模式標本の産地; 六所山

(3) ロクショヤミサラグモ *Arcuphantes digitatus* H. Saito

筆者の標本をもとに、斉藤 博氏により 1992 年に新種記載された (Saito, 1992). 完模式標本の産地は豊田市坂上町 (六所山). 副模式標本の産地は豊田市坂上町 (六所山) である.

体長メス 2.2mm, オス 2.67mm. 雌雄背甲は茶褐色. 腹部は淡褐色で両縁に 3~4 対の白斑がある. 山地に生息し, 崖地の窪み, 石垣のすき間, 朽ち木のすき間, 洞窟など暗部にシート網を張る. 豊田市では上記の豊田地区と下山地区・稲武地区で記録されている. 県内では岡崎市・豊橋市・豊川市・新城市・北設楽郡設楽町・同東栄町・同豊根村で記録されている. 国内では静岡県で記録された (新海ほか, 2012) ほか, 長野県でも記録している (緒方, 未発表).



写真 VIII-18
 ロクショヤミサラグモ♀
 坂上町六所山 1987年5月16日撮影
 完模式標本の産地；六所山



写真 VIII-19
 ロクショヤミサラグモ♂
 坂上町六所山 1987年5月16日撮影

(4) オガタニッポンケシグモ *Nippononeta ogatai* Ono & H. Saito

筆者の標本をもとに、小野展嗣博士、斉藤 博氏により 2001 年に新種記載された (Ono and Saito, 2001). 完模式標本の産地は豊田市坂上町 (六所山). 副模式標本の産地は豊田市坂上町 (六所山) である.

体長メス 1.8mm, オス 1.5mm. メス背甲は濃茶褐色. 腹部は淡赤褐色. オス背甲は黒褐色. 腹部は黒褐色. 山地に生息し, 朽ち木のすき間や落葉層のすき間にシート網を張る. 豊田市では上記の豊田地区と旭地区で記録されている. 県内では岡崎市で記録されている. 国内では愛知県以外から記録されていない. したがって, 分布域は極めてせまい範囲と考えられる.



写真 VIII-20
 オガタニッポンケシグモ♀
 坂上町六所山 2014年5月6日撮影



写真 VIII-21
 オガタニッポンケシグモ♂
 坂上町六所山 2014年5月6日撮影
 完模式標本の産地；六所山

(5) ミカワヤチグモ *Coelotes ogatai* Nishikawa

筆者の標本をもとに、西川善朗博士により 2009 年に新種記載された (Nishikawa, 2009). 完模式標本の産地は豊田市坂上町 (六所山). 副模式標本の産地は豊田市坂上町 (六所山) である. 体長メス 9.7mm, オス 9mm. 雌雄背甲は黒赤褐色. 腹部の地色は茶褐色で全体に黒褐色の模様がある. 山地に生息し, 崖地に漏斗型の間シート網を張る. 豊田市では上記の豊田地区と旭地区・下山地区で記録されている. 県内では岡崎市千万町 (県野外教育センター敷地内) で確認されている. 国内では和歌山県から記録されたが, 分布域は極めてせまい範囲と考えられる (新海ほか, 2012).



写真 VIII-22 ミカワヤチグモ♀
坂上町六所山 2009年10月18日撮影



写真 VIII-23 ミカワヤチグモ♂
坂上町六所山 2009年10月18日撮影
完模式標本の産地；六所山

(6) コミナミツヤハエトリ *Stertinius kumadai* Logunov Ikeda & Ono

1997年に新種記載された (Logunov et al., 1997). 完模式標本の産地は東京都八王子市. 筆者が1993年6月12日に稲武地区黒田町で採集したメスが, 副模式標本の産地の一つになっている. 体長雌雄3.0~3.2mm. 雌雄とも背甲は濃褐色で金色の毛で覆われている. 腹部は濃褐色で金色の毛で覆われている. そのため全体に光沢がある. 徘徊性で山地に生息する. 県内では豊田市の豊田地区・小原地区から記録されているが, 個体数が極めて少ない. 国内では東京都・三重県・滋賀県・岡山県で記録された (新海ほか, 2012).



写真 VIII-24 コミナミツヤハエトリ♀
黒田町林道寺洞線
2014年6月23日撮影



写真 VIII-25 コミナミツヤハエトリ♂
黒田町林道寺洞線
2014年7月2日撮影

(7) シロスジカノコハエトリ *Chinattus ogatai* Suguro

2014年に新種記載された (Tatsumi, 2014). 完模式標本の産地は神奈川県小田原市. 筆者が2011年10月11日に豊田市西広瀬町で採集した雌雄が, 副模式標本の産地の一つになっている. 体長メス3.8mm, オス3.42mm. メス背甲は濃茶褐色で灰色や赤茶色の毛が生えている. 腹部は淡褐色で末端にかけてハ字模様がならび, 白色や灰色の毛が生えている. オス背甲は黒赤褐色で中央と両縁に条状の白毛が生えている. 腹部は黒赤褐色で縁, 中央部, 末端部に条状の白色や毛が生えている. この条状の白毛は非常に目立つので識別点になっている. 平地から山地に生息し, 地表を飛び跳ねている. 豊田市では上記の豊田地区で記録されている. 県内では名古屋市・安城市・岡崎市・新城市で記録されている. 他県では三重県で記録している (緒方, 2014b).



写真 VIII-26
シロスジカノコハエトリ♀
西広瀬町 2011年5月7日撮影



写真 VIII-27
シロスジカノコハエトリ♂
西広瀬町 2011年5月7日撮影
副模式標本の産地；西広瀬町

6 豊田市で確認された特筆すべき種

(1) モリズミマシラグモ *Masirana silvicola* (Kobayashi)

小林久俊氏により 1973 年に新種記載された。完模式標本の産地は静岡県浜松市である。体長雌雄 1.8~2.0mm 前後。雌雄とも背甲は淡褐色。腹部は淡褐色で模様はない。筆者が 2013 年 10 月 22 日に足助地区大多賀町の旧いこいの森付近の杉林の落葉層で 1♂を採集する。この 1 例が県内唯一の記録である。国内では三重県で記録された（新海ほか, 2012）。

(2) アオグロセンショウグモ *Ero cambridgei* Kulczynski

体長メス 3.5mm 前後, オス 2.5mm 前後。雌雄とも背甲は淡褐色で黒色の斑紋がある。腹部は淡褐色で茶色や黒褐色の小さな斑紋がある。草原や湿潤地に生息する。筆者が 1987 年 6 月 24 日に北設楽郡設楽町裏谷で 1♀を採集したのが県初記録である。その後, 1992 年 4 月 12 日に同地で 2♀を記録する。県内 3 例目として 2011 年 5 月 16 日に豊田地区西広瀬町で 1♀を採集した。同 5 月 7 日に同地で雌雄を採集する。オスの記録は県初記録である。国内では秋田県・宮城県・福島県・神奈川県・長野県・三重県・岡山県・鳥取県で記録された（新海ほか, 2012）。

(3) フタホシヒメグモ *Chryso bimaculata* Yoshida

体長メス 1.8mm 前後, オス 1.6mm 前後。メスの背甲は淡黄色。腹部は淡褐色で大小の白色の斑紋がある。オスの背甲は淡黄色。腹部は淡褐色で大小の白色と黒色の斑紋がある。山地の広葉樹に生息する。筆者が 2013 年 5 月 16 日旭地区伊熊町伊熊神社社叢で 1♂, 1♂幼体を採集したのが県初記録である。その後, 同地で同年 6 月 18 日と 2014 年 5 月 30 日に雌雄複数個体を記録する。県内では唯一の生息地である。国内では神奈川県・三重県・岡山県・広島県・香川県・高知県・福岡県・長崎県で記録された（新海ほか, 2012）。

(4) コガタコノハグモ *Enoplognatha lordosa* Zhu & Song

体長メス 5mm, オス 3.6~4.5mm。雌雄とも背甲は濃褐色。腹部の地色は褐色で黒褐色と白色斑紋がある。筆者が 2014 年 5 月 16 日に旭地区伊熊町伊熊神社社叢で 1♂を採集したのが県初記録である（吉田 哉博士同定）。その後, 2014 年 7 月 2 日に稲武地区黒田町林道寺洞線の杉林で 1♀を記録する。県内での記録はこの 2 例だけである。採集例が少なく, 国内では京都府・佐賀県で記録されている（新海ほか, 2012）。国外では中国に分布する。

(5) アズミヤセサラグモ *Himalaphantes azumiensis* (Oi)

体長メス 5.5~5.6mm, オス 4.5~4.7mm。雌雄とも背甲は赤褐色で頭部は濃赤褐色。腹部の地色は褐色で多数の黒色と白色の斑紋がある。崖地の窪みや木の根元等にシート網を張り, 網の奥に身を隠している。筆者が 1992 年 8 月 27 日に稲武区稲武町面ノ木原生林で 1♀を採集したのが県初記録である。その後も生息を確認している。県内での生息地は本地域と北設楽郡設楽町裏谷で, ともに 1,000m を超えるブナ林である。国内では長野県・山梨県で記録された（新海ほか, 2012）。

(6) フタエツノヌカグモ *Paikiniana keikoeae* H. Saito

体長雌雄 2.3mm 前後。雌雄とも背甲は艶のある赤褐色で頭部は濃赤褐色。腹部は褐色。4 脚とも赤褐色。山地の落葉層に生息する。筆者が 2014 年 3 月 8 日に下山区大沼町で 1♀を採集したの

が県初記録と思われていたが、過去の標本を精査した結果、1988年5月14日に小原地区小原町で採集した1♂が県初記録である。国内では秋田県・長野県・山梨県など本州の12県と愛媛県で記録された（新海ほか、2012）。



写真 VIII-28
モリズミマシラグモ♂
大多賀町 2013年10月22日撮影



写真 VIII-29
アオグロセンショウグモ♂
西広瀬町 2011年5月7日撮影



写真 VIII-30 フタホシヒメグモ♀
伊熊町伊熊社叢
2013年6月18日撮影



写真 VIII-31 コガタコノハグモ♀
黒田町林道寺洞線
2014年7月2日撮影



写真 VIII-32
アズミヤセサラグモ♀
稲武町面ノ木園地
2010年10月1日撮影



写真 VIII-33
フタエツノヌカグモ♀
大沼町 2014年3月8日撮影

(7) タイリクテングヌカグモ *Paikiniana lurida* (Seo)

体長メス 1.91mm, オス 1.88mm. 雌雄背甲は艶のある赤褐色. 腹部は褐色. 4脚とも赤褐色. 落葉層に生息し, 平地の社寺林や雑木林から発見される. 本市では2011年3月12日と同年5月2日に豊田地区和会町神明社境内で雌雄を採集する. 県内では名古屋市・日進市で記録されている. 1992年に韓国で新種記載され, 2011年に小野展嗣博士により日本新記録種として報告された(Ono,

2011). 国内では本県が唯一の分布である.

(8) ヤマジコナグモ *Tapinocyba silvicultrix* H. Saito

体長雌雄 1.5~1.6mm. 雌雄とも背甲は栗色. 腹部は褐色. 4脚とも赤褐色. 山地から発見される. 本市では2014年3月19日に下山地区蘭町の杉林落葉層でメスを採集する. 県内唯一の記録である. オスは未発見である. 国内では宮城県・茨木県・栃木県・群馬県・神奈川県で記録された(新海ほか, 2012).

(9) ダンダラオニグモ *Gibbaranea bituberculata* (Walckenaer)

体長メス 6.0~7.0mm, オス 5mm 前後. 雌雄とも背甲は黒灰色. 腹部は灰褐色で黒色と白色の斑紋がある. 両肩に突起がある. 山地に生息する. 筆者が1991年5月5日に北設楽郡設楽町神田で1♀を採集したのが県初記録である(谷川明男博士同定). 本市では2012年5月14日に小原地区百月町百月国有林でオスを採集する(谷川明男博士同定). 県2例目の記録でオスは初記録である. 国内では北海道・本州・九州に分布する(新海ほか, 2012).

(10) カワベコモリグモ *Arctosa kawabe* Tanaka

体長メス 7.8~13.5mm, オス 6.4~9.5mm 前後. 雌雄とも背甲は黄褐色で不規則な斑紋がある. 腹部は淡褐色ないし黄褐色で不規則な斑紋がある. 山地の溪流に生息する. 県内では岡崎市(旧額田郡)・新城市(旧鳳来町)・北設楽郡設楽町・北設楽郡豊根村(旧富山村)で記録されているが, 個体数は非常に少ない. 本市での記録は1例で, 2009年7月19日に足助地区山ノ仲立町神越川でメスを採集する. 国内では北海道・本州・四国・九州に分布する(新海ほか, 2012)

(11) コウライササグモ *Oxyopes koreanus* Paik

体長メス 4~9mm, オス 4~6mm. 雌雄とも背甲の中央部は黄白色で両側は黄褐色. V字状の黒褐色の条斑がある. 腹部の地は淡黄色で心斑は褐色. 両側に茶褐色の斑紋がある. 4脚の各節に多数の刺を有する. 山地の草原に生息する. 筆者が2012年6月24日に稲武地区大野瀬町で, 雌雄を採集したのが県初記録である. 狭い生息地だが2013年・2014年と生息を確認している. 本市では豊田地区加茂川町でも確認された. 県内では本市以外では記録されていない. 国内では東京都・福島県・三重県・鳥取県など本州の1都12県と佐賀県・熊本県・宮崎県で記録された(新海ほか, 2012).

(12) ヤマハタケグモ *Neoantistea quelpartensis* Paik

体長雌雄 2.1~3.3mm. 雌雄とも背甲は黄白色で栗色. 腹部は茶褐色で黒褐色の斑紋がある. 造網性で山地の落葉層に生息する. 県初記録は筆者が1987年9月20日に北設楽郡設楽町裏谷の1♀である. 次いで1991年9月17日に犬山市八層自然休養村でメスと幼体を採集した. 本市では2013年5月16日に旭地区伊熊町伊熊社叢で1♀を採集する. 県内では3例目の記録である. 国内では北海道・本州・四国・九州に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-34 タイリクテングヌカグモ♂
和会町神明社境内
2011年3月12日撮影



写真 VIII-35 ヤマジコナグモ♀
蘭町 2014年3月19日撮影



写真 VIII-36 ダンダラオニグモ♂
百月町百月国有林
2012年5月15日撮影



写真 VIII-37 カワベコモリグモ♀
山ノ仲立町神越川
2009年7月19日撮影



写真 VIII-38 コウライササグモ♀
大野瀬町 2013年7月10日撮影



写真 VIII-39 ヤマハタケグモ♀
伊熊町伊熊社叢
2013年5月16日撮影

(13) ミヤマタンボグモ *Agroeca montana* Hayashi

体長メス 4.4~5.0mm, オス 3.5~4.0mm. 雌雄とも背甲は黒灰色. 腹部は黒褐色. 徘徊性で山地に生息する. 筆者が 2009 年 5 月 10 日に稲武地区稲武町面ノ木原生林の稜線で 1♂を採集する. これが県で唯一の記録である. 国内では秋田県・山形県・神奈川県・群馬県・山梨県・長野県・静岡県で記録された (新海ほか, 2012).

(14) チクニフクログモ *Clubiona chikunii* Hayashi

体長雌雄 5.0~7.0mm. 雌雄とも背甲は淡褐色. 腹部は灰褐色. 徘徊性で山地に生息する. 筆者が 2011 年 4 月 6 日に豊田地区坂上町六所山で 1♂を採集したのが県初記録である (小野展嗣博士同定). 2 例目として, 同地で 2014 年 5 月 6 日に 1♂を採集する. 3 例目として, 2014 年 9 月 15 日に 1♂を稲武地区稲武町面ノ木遊園で採集する. 国内では秋田県・栃木県・石川県・長野県で

記録された（新海ほか，2012）。

（15）アカガネウラシマグモ *Otacilia mustela* Kamura

体長メス 3.8～4.1mm，オス 3.0～3.8mm。雌雄とも背甲は赤褐色で黒色の斑紋がある。腹部は黒褐色で末端に白斑がある。徘徊性で山地に生息する。筆者が 2012 年 6 月 24 日に稲武地区大野瀬町池ヶ平で 1♀を採集したのが県初記録であるが，本種の幼体と思われる個体を小原地区の百月町百月国有林と北篠平で採集している。国内では千葉県・東京都・神奈川県で記録された（新海ほか，2012）。

（16）イボカニグモ *Boliscus tuberculatus* (Simon)

体長メス 2.6～4.3mm，オス 1.6～2.0mm。雌雄とも背甲は濃褐色で褐色の斑紋がある。腹部は茶褐色で淡褐色や白色の斑紋がある。徘徊性で南方系のクモである。筆者が 1992 年 6 月 18 日に豊田地区王滝町で 2♀を採集したのが県初記録である。この発見地は 3 年後に宅地になり消滅した。本市では唯一の記録である。県内では新城市（旧鳳来町）の数か所から記録している。国内では本州（千葉県以内）・四国・九州・南西諸島に分布する（新海ほか，2012）。



写真 VIII-40 ミヤマタンボグモ
稲武町面の木遊園
2009 年 5 月 10 日撮影



写真 VIII-41 チクニフクログモ
坂上町六所山
2014 年 5 月 6 日撮影



写真 VIII-42 アカガネウラシマグモ♀
大野瀬町池の平
2014 年 5 月 6 日撮影



写真 VIII-43 イボカニグモ♀
王滝町 1992 年 6 月 18 日撮影

7 豊田市で確認された愛知県レッドデータ第三次リスト掲載種

愛知県では『レッドデータブックあいち』と題し、2002年に発行された。2009年には第二次リストの見直し版が発行され、2014年度には第三次リストの見直しが行われた。それによると、以下の5種が追加された。絶滅危惧IA類(CR)がババハシリグモ・ミヤマタンボグモモドキ。絶滅危惧IB類(EN)がエビチャコモリグモ・シッチコモリグモ。絶滅危惧II類(VU)がカコウコモリグモの合計5種である。また、カテゴリーランクの移動が以下の4種類ある。アケボノユウレイグモは絶滅危惧IA類(CR)から絶滅危惧IB類(EN)へ。キシノウエトタテグモは絶滅危惧IB類(EN)から絶滅危惧II類(VU)へ。シロオビトリノフンダマシ・アカイトトリノフンダマシは絶滅危惧II類(VU)から準絶滅危惧(NT)へ。いずれもワンランク降格である。その結果、絶滅危惧IA類(CR)が3種類。絶滅危惧IB類(EN)が17種類。絶滅危惧II類(VU)が12種類。準絶滅危惧(NT)が6種類。情報不足(DD)が1種類の合計39種である。豊田市では33種類が確認された。これは愛知県リスト39種に対し84.6%にあたる。各地区を含めた確認種の一覧は表VIII-3に示すとおりである。本市では配慮種として取り挙げる。

表 VIII-3 各地区で確認された愛知県絶滅危惧第三次リスト掲載種

番号	カテゴリーランク	愛知県掲載種	新豊田市	地区別確認種						
				豊田	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
1	絶滅危惧IA類 (CR)	ミカワホラヒメグモ	×	×	×	×	×	×	×	×
2		ババハシリグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
3		ミヤマシボグモモドキ	○	×	×	×	×	×	×	○
1	絶滅危惧IB類 (EN)	アケボノユウレイグモ	×	×	×	×	×	×	×	×
2		シロタマヒメグモ	○	×	×	×	×	×	×	○
3		キヌキリグモ	○	×	×	×	×	×	×	○
4		キノボリキヌキリグモ	○	×	×	×	×	×	×	○
5		チクニドヨウグモ	○	○	×	×	○	×	×	○
6		キジロオヒキグモ	○	○	×	×	×	×	×	○
7		コケオニグモ	○	×	×	×	×	×	×	○
8		マメイタイセキグモ	○	○	×	×	○	○	×	×
9		ムツトゲイセキグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
10		ツシマトリノフンダマシ	○	○	×	×	×	×	×	×
11		ワクトツキジグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
12		エビチャコモリグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
13		イサゴコモリグモ	○	×	×	×	×	×	○	×
14		シッチコモリグモ	×	×	×	×	×	×	×	×
15		テジロハリゲコモリグモ	×	×	×	×	×	×	×	×
16		シノビグモ	○	×	×	×	○	×	○	○
17		カトウツケオグモ	○	○	×	×	×	○	×	×
1	絶滅危惧II類 (VU)	ワスレナグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
2		カネコトタテグモ	○	○	○	○	○	○	×	○
3		キノボリタテグモ	○	○	○	○	○	○	○	○
3		キシノウエトタテグモ	○	○	○	×	×	×	×	×
4		ニシキオニグモ	○	○	○	×	×	×	×	○
6		トゲグモ	○	×	×	×	○	×	○	○
7		カコウコモリグモ	×	×	×	×	×	×	×	×
8		ミナミコモリグモ	○	○	○	○	○	○	×	×
9		オビジガバチグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
10		アワセグモ	○	○	×	×	×	×	×	×
11		アシナガカニグモ	○	○	×	×	○	○	○	×
12		オビボソカニグモ	○	×	×	×	○	○	×	×
1	準絶滅危惧 (NT)	コガネグモ	○	○	○	×	○	○	×	○
2		オオトリノフンダマシ	○	○	×	×	○	○	×	○
3		トリノフンダマシ	○	○	×	×	○	○	○	○
4		シロオビトリノフンダマシ	○	○	○	×	○	○	×	×
5		アカイロトリノフンダマシ	○	○	○	×	○	○	○	○
6		ゲホウグモ	○	○	○	×	○	×	×	×
1	情報不足 (DD)	ムロズミノソレグモ	×	×	×	×	×	×	×	×
合計		39	33	24	9	3	15	12	7	16

(1) 絶滅危惧 IA 類 (CR) : 本市配慮種

ア ババハシリグモ *Dolomedes fontus* Tanikawa & Miyashita

体長メス 1.0~18.0mm, オス 9.0~15.0mm. 雌雄とも背甲は濃茶褐色で, 中窩に茶色の細い縦条がある. 両縁は幅広い茶褐色で外縁は灰白色. 雌雄とも腹部背面は濃茶褐色で, 心斑は淡褐色. 両縁は幅広い茶褐色で, 背甲と腹部上面とも配色パターンは似る. 本市では 1991 年 6 月 9 日に豊田市勘八町の山中にあるため池周辺の湿潤地で雌雄 6 頭を採集した. この記録が国内初記録である. 現在では確認されず, 絶滅したと思われる. 県内では新城市 (旧作手村) が唯一の生息地である (分布図 VIII-1). 国内では千葉県・東京都で記録されている (新海ほか, 2012).



写真 VIII-44 ババハシリグモ♂
勘八町 1991 年 6 月 9 日撮影

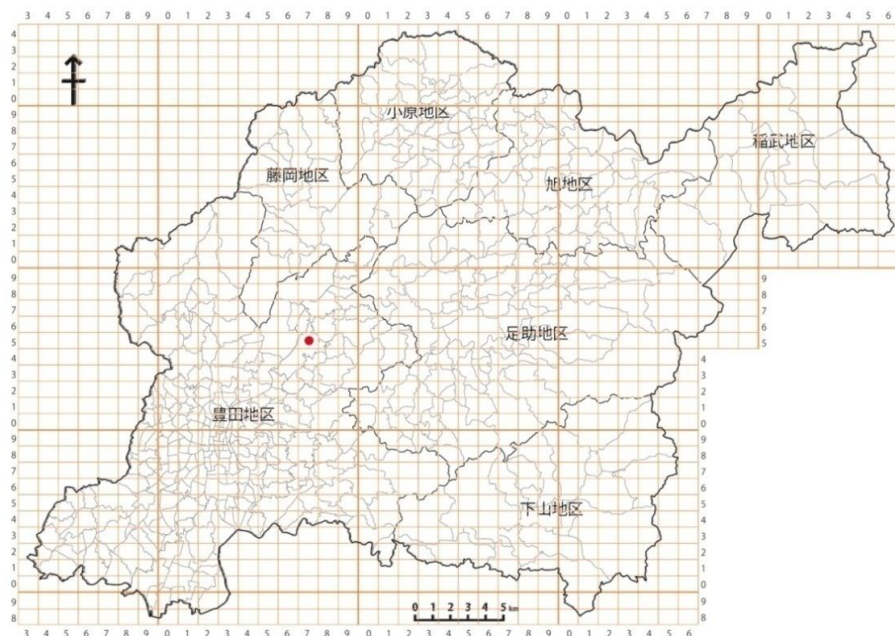


図 VIII-1 ババハシリグモの分布図

イ ミヤマシボグモモドキ *Zora nemoralis* (Blackwall)

体長メス 3.5~5.0mm, オス 2.5~4.0mm. オス背甲は濃茶褐色で中央, 側縁, 外縁に多数の白色斑がある. 腹部背面は濃茶褐色で白色の斑が多数ある. 全体に黒い印象を受ける. メスの背甲は茶褐色で, 両縁に濃茶褐色の波形模様で外縁は灰白色. 本市では 2011 年 6 月 3 日に大野瀬町池ヶ平でメス 1 頭を採集したのが県初記録である. 2 例目は 2011 年 9 月 12 日に, 同市稲武町月ヶ平で 8 頭を確認する. 最初の発見地では, その後の調査でも発見に至らないので, 稲武地区月ヶ平が県内唯一の生息地と思われる (分布図 VIII-2). 国内では北海道・群馬県・山梨県・長野県で記録されている (新海ほか, 2012). 本県が南限にあたる.



写真 VIII-45
ミヤマシボグモモドキ♀
大野瀬町池ヶ平
2012 年 5 月 7 日撮影

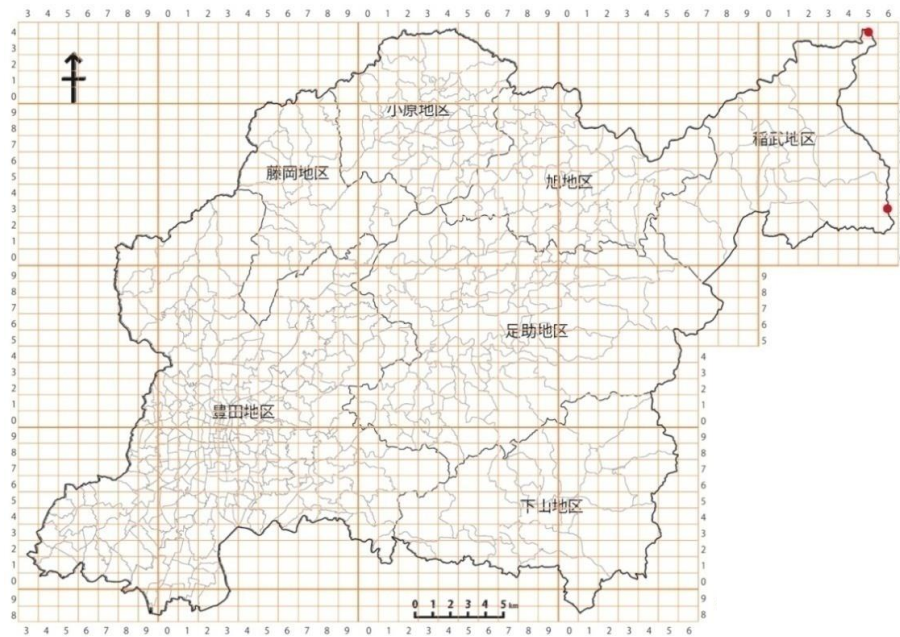


図 VIII-2 ミヤマシボグモモドキの分布図

(2) 絶滅危惧 IB 類 (EN) : 本市配慮種

ア シロタマヒメグモ *Enoplognatha margarita* Yaginuma

体長メス 4.1~5.7mm, オス 3.9~5.2mm. 雌雄とも背甲は淡褐色で中央は褐色. 腹部は淡黄色で黒色の斑紋がならぶ. 山地に生息し, 葉裏に不規則網を張る. 本市での初記録は 2011 年 6 月 3 日に大野瀬町池ヶ平でメス幼体 2 頭を採集する. 本市では唯一の生息地である (分布図 VIII-3). 県内では北設楽郡設楽町裏谷と北設楽郡豊根村で記録されている. 稲武地区で確認された. 国内では北海道・群馬県・山梨県・長野県で記録された (新海ほか, 2012).



写真 VIII-46
シロタマヒメグモ♀幼体
大野瀬町池ヶ平 2011年6月3日撮影

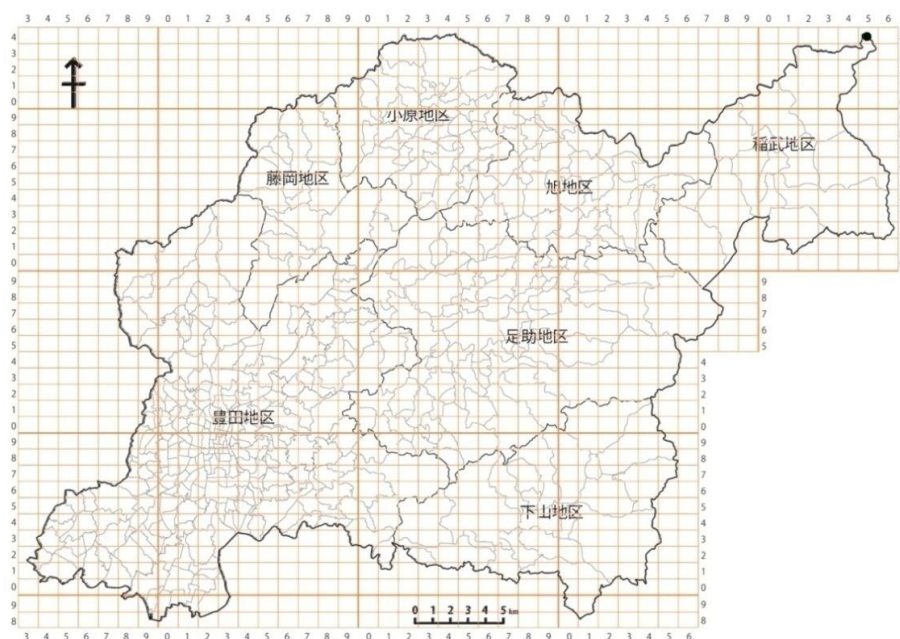


図 VIII-3 シロタマヒメグモの分布図

イ キヌキリグモ *Herbiphantes cericeus* (S.Saito)

体長雌雄 3.5～5.0mm. 雌雄とも背甲は淡黄褐色で中央は黒色斑紋がある。腹部は淡黄色で中央に黒色と褐色の斑紋がある。山地に生息し、葉裏（特にササを好む）にシートを張る。本市では稲武町面ノ木原生林に生息する（分布図 VIII-4）。県内では北設楽郡設楽町裏谷に生息する。ともにブナ林の下草が良好な生息地になっている。国内では北海道・本州・四国・九州に分布する（新海ほか, 2012）。



写真 VIII-47 キヌキリグモ♀
稲武町面ノ木園地
2014年9月15日撮影

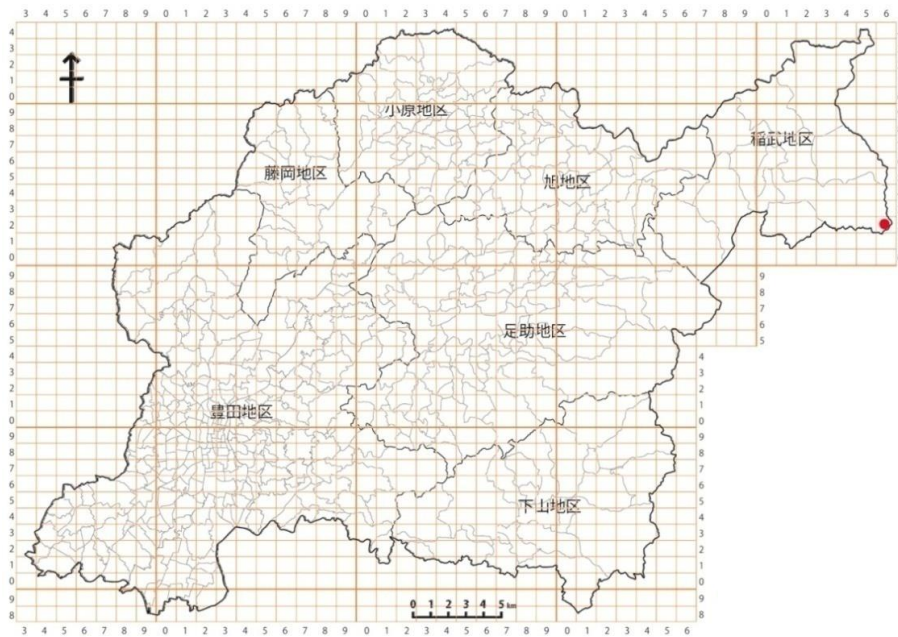


図 VIII-4 キヌキリグモの分布図

ウ キノボリキヌキリグモ *Herbiphantes longiventris* Tanasevitch

体長雌雄 3.5～5.0mm. 雌雄とも背甲は淡黄褐色で中央は黒色斑紋がある。腹部は淡色で中央に黒色と褐色の斑紋がある。山地に生息し、樹幹に着生するコケに不規則網を張る。本市では2012年7月16日に稲武町面ノ木原生林で1♂幼体を記録した。この1例だけである（分布図 VIII-5）。県内では北設楽郡設楽町裏谷に生息する。国内では北海道・東京都・山梨県・岐阜県・三重県・兵庫県・岡山県・徳島県で記録されている（新海ほか, 2012）。



写真 VIII-48
キノボリキヌキリグモ♂幼体
稲武町面ノ木園地
2012年7月16日撮影

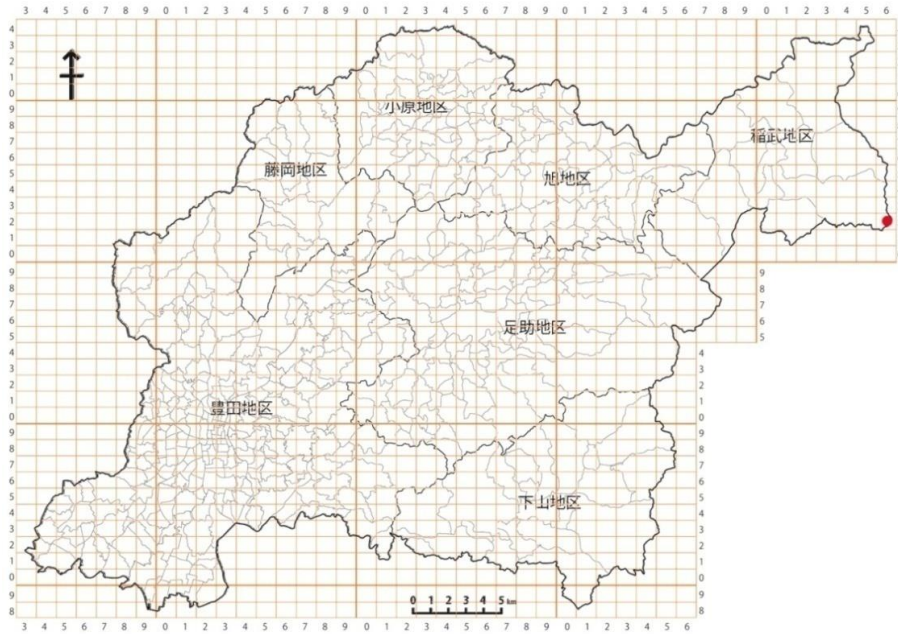


図 VIII-5 キノボリキヌキリグモの分布図

エ チクニドヨウグモ *Metleucauge chikunii* Tanikawa

体長メス 7.5~11.5mm, オス 6.5~8.0mm. 雌雄とも背甲は明褐色で中央は黒色斑紋がある. 腹部は淡色で両縁に黒色の波形模様で, 多数の黄色い斑紋がある. 中央に黒色と褐色の斑紋がある. 山地に生息し, 溪流上に水平円網を張る. 本市では豊田地区・足助地区・稲武地区で確認された (分布図 VIII-6). 県内では北設楽郡設楽町・岡崎市 (旧額田郡) から記録されている. 国内では北海道・本州・四国・九州に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-49 チクニドヨウグモ♀
山ノ中立町神越川
2009年7月19日撮影

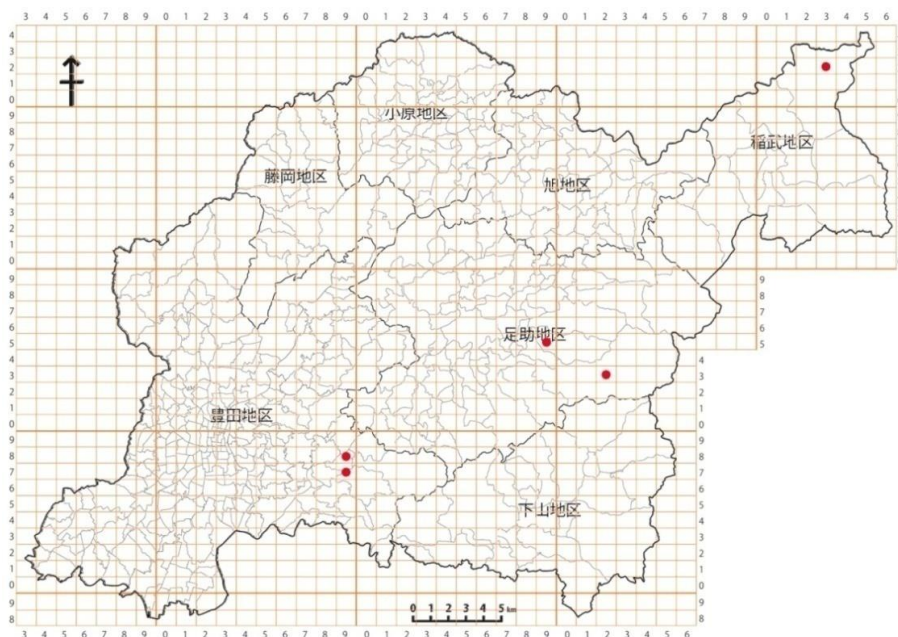


図 VIII-6 チクニドヨウグモの分布図

オ キジロオヒキグモ *Arachnura logio* Yaginuma

体長メス 25.0～28.0mm, オス 1.5～2.0mm. メスの背甲は淡色. 腹部は淡色もしくは桃色がかった淡色で, 両肩が大きく突き出る. 末端部は細長く, 最末端部は毛が房状になる. オスの背甲は濃褐色. 腹部は濃褐色で末端部は茶褐色. 平地から山地に生息し, 枝葉間に水平円網を張る. オスの記録は2013年6月14日に猿投町猿投山での記録だけである. 本市では豊田地区(東山町・琴平町)・稲武地区(黒田町)で確認された(分布図VIII-7). 県内では瀬戸市・岡崎市・新城市(旧鳳来町)から記録されている. 国内では本州(千葉県以内)・四国・九州・南西諸島に分布する(新海ほか, 2012).

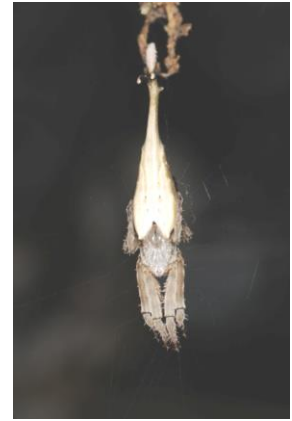


写真 VIII-50
キジロオヒキグモ♀
琴平町トヨタの森
2011年8月17日撮影

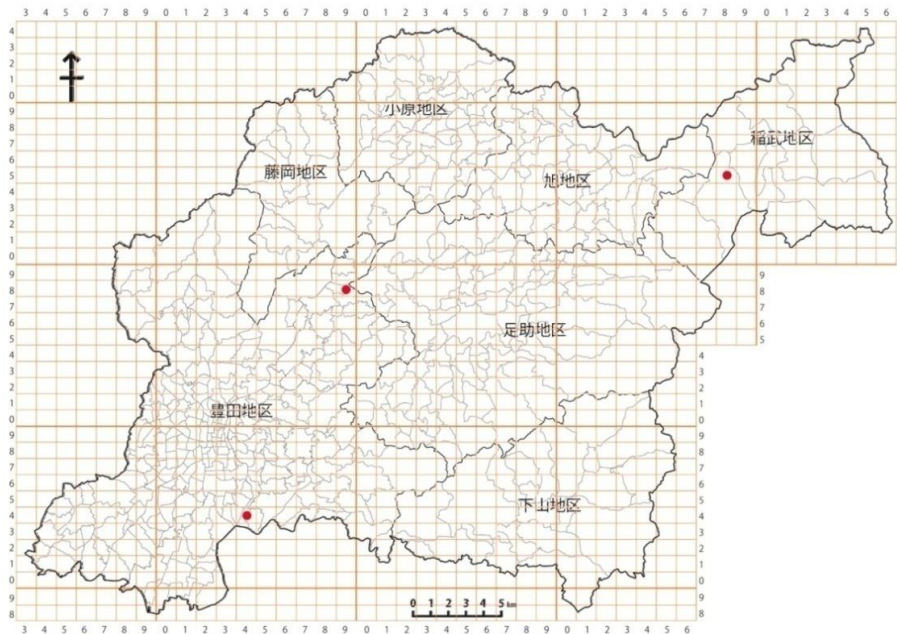


図 VIII-7 キジロオヒキグモの分布図

カ コケオニグモ *Araneus seminiger* (L. Koch)

体長メス 15.5～22.0mm, オス 11.5mm 前後. メスの背甲は赤褐色. 腹部は緑色で両側に黒色の波形模様が目立つ. 両肩に突起がある. オスの背甲は濃褐色. 腹部はメスの色彩に似る. 山地に生息し, 枝葉間に水平円網を張る. 本市では2009年7月14日に稲武地区小田木町で間野隆裕氏が確認された(分布図VIII-8). 県内では北設楽郡設楽町・北設楽郡豊根村から記録されている. オスの記録は1例のみで, 北設楽郡設楽町裏谷から記録された. 国内では北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-51 コケオニグモ♀幼体
小田木町
2009年7月14日 間野隆裕撮影

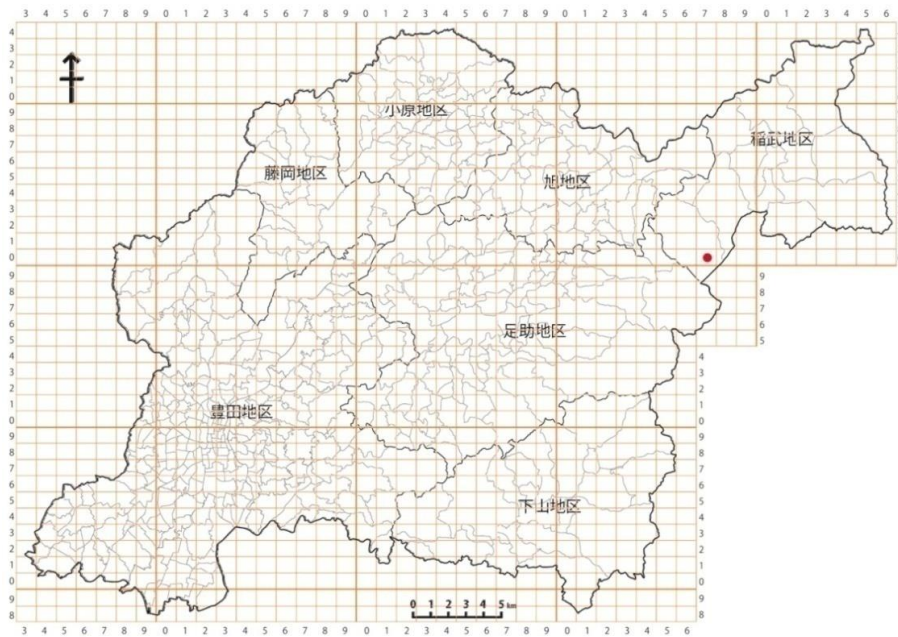


図 VIII-8 コケオニグモの分布図

キ マメイタイセキグモ *Ordgarius hobsoni* (O.P.-Cambridge)

体長メス 5.5~6.5mm, オス 2.0mm 前後. メスの背甲は濃褐色で多数の突起がある. 腹部は褐色で赤褐色の瘤が多数ある. オスの背甲は濃褐色で4つの突起がある. 腹部は濃褐色で黒色や淡色の斑紋がある. 主に低山や里山に生息する. 夜間に活動し粘球を第2脚先端に吊るす. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区・足助地区・下山地区で確認された (分布図 VIII-9). 県内では岡崎市から記録されている. 国内では本州 (千葉県以内)・四国・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-52 マメイタイセキグモ♀
加茂川町 2011年8月9日撮影

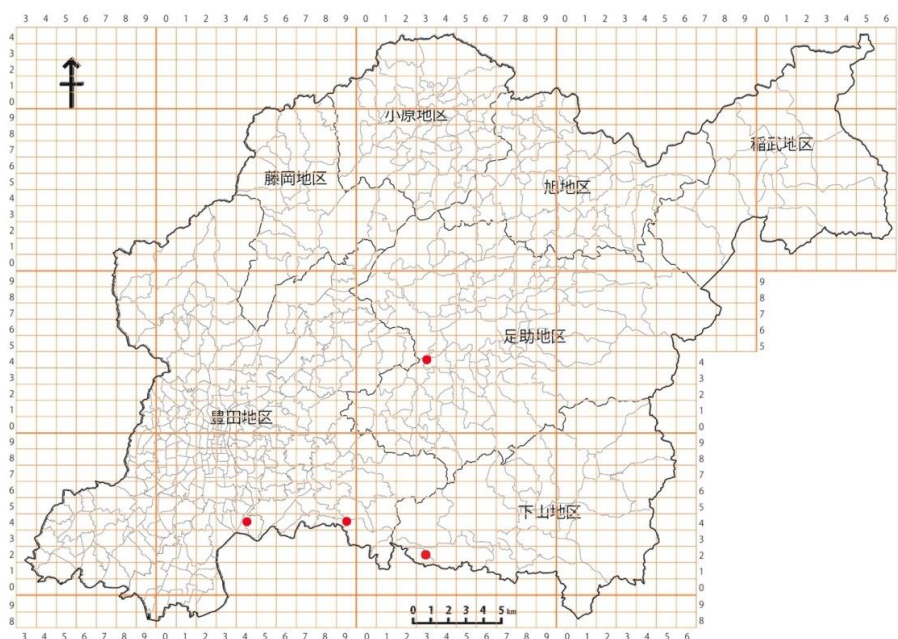


図 VIII-9 マメイタイセキグモの分布図

ク ムツトゲイセキグモ *Ordgarius sexspinosus* (Thorell)

体長メス 7.0~10.5mm, オス 2.0mm 前後. メスの背甲は濃褐色で中央部に2本, 後部に4本の突起がそれぞれある. 腹部は淡褐色で濃褐色の斑紋がある. 肩面に1対の丸い突起がある. オスの背甲は濃褐色で中央部に2本, 後部に4本の突起がそれぞれある. 夜間に活動し, 粘球を第2脚先端に吊るす. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区(琴平町・本新町)で確認された(分布図 VIII-10). 県内では名古屋市・豊川市(旧宝飯郡音羽町)・新城市(旧鳳来町)から記録されている. 国内では本州(福島県以内)・四国・九州に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-53
ムツトゲイセキグモ♀幼体
本新町 2013年11月2日撮影

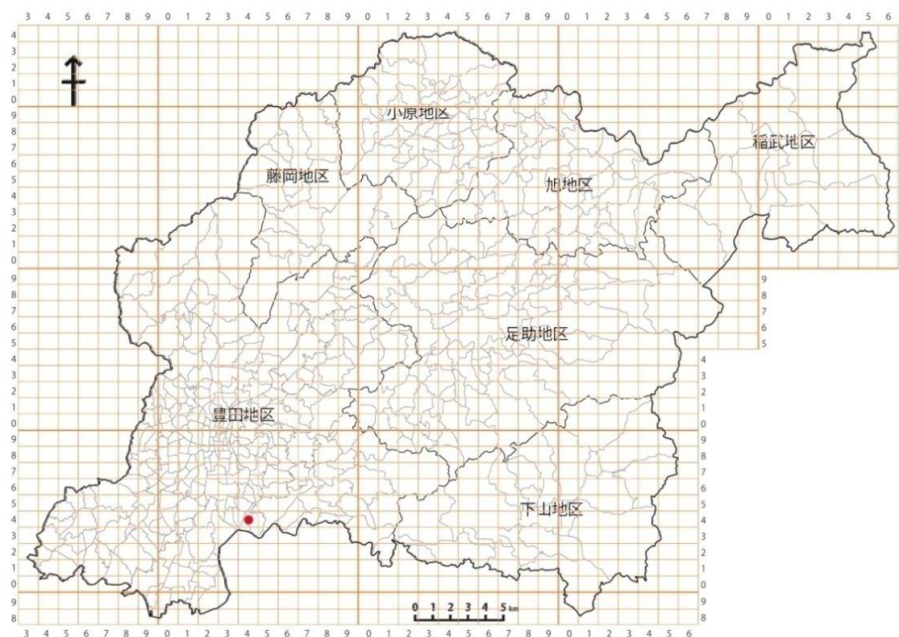


図 VIII-10 ムツトゲイセキグモの分布図

ケ ツシマトリノフンダマシ *Paraplectana tsushimensis* Yamaguchi

体長メス 7.0~10.0mm, オス 2.0mm 前後. メスの背甲は赤褐色. 腹部は鮮やかな橙色で中央付近や縁に黒色斑紋が多数ある. オスの背甲は赤褐色. 腹部は明褐色. 夜間に不規則な同心円網を張る. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区(琴平町)で杉山時雄氏により確認された(分布図 VIII-11). 県内では岡崎市・豊川市(旧宝飯郡音羽町)・新城市(旧鳳来町)から記録されている(緒方, 2014). 国内では本州(栃木県以南)・四国・九州・南西諸島に分布する(新海ほか, 2012). 全国的に採集例の少ない希産種である.



写真 VIII-54
ツシマトリノフンダマシ♀
琴平町トヨタの森
2014年6月26日撮影

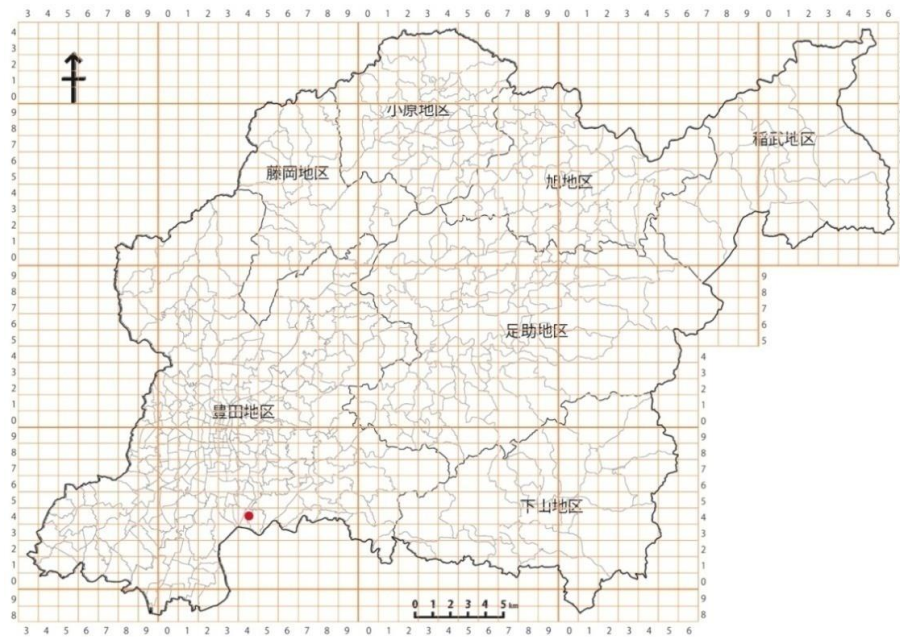


図 VIII-11 ツシマトリノフンダマシの分布図

コ ワクドツキジグモ *Pasilodus hupingensis* Yin, Bao & Kim

体長メス 8.0~10.0mm, オス 2.5mm 前後. メスの背甲は濃褐色. 腹部は褐色で多数の粒状突起がある. 形も横長の菱形をしている. オスの背甲は濃褐色. 腹部は淡褐色. 本市では豊田地区 (東山町・琴平町) で確認された (分布図 VIII-12). 県内では岡崎市・北設楽郡設楽町で確認された. 県内での採集方法は枝葉のビーティングで得られた. 国内では本州 (東京都以南)・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012). 全国的に採集例の少ない希産種である.



写真 VIII-55 ワクドツキジグモ♀幼体
琴平町トヨタの森 2008年3月6日撮影

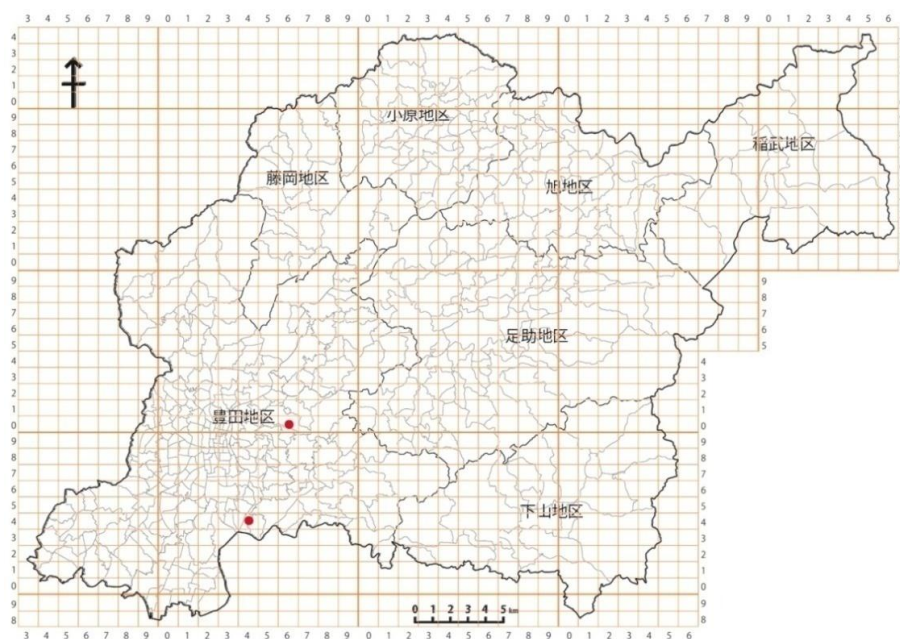


図 VIII-12 ワクドツキジグモの分布図

サ エビチャコモリグモ *Arctosa ebicha* Yaginuma

体長メス 11.0～15.0mm, オス 10.2～12.1mm. 大型のコモリグモである。雌雄とも背甲は濃茶褐色で頭部は茶褐色。腹部は茶褐色で黒色の斑紋がある。徘徊性で平地の河川敷や草地に生息する。本市では豊田地区（上原町・花園町）で確認された（分布図 VIII-13）。県内では名古屋市・豊明市・刈谷市・安城市・知立市・岡崎市で確認された。多くの生息地が河川工事や土地開発等で消滅した。現在、県内での確実な生息地は数か所である。国内では本州・四国・九州に分布する（新海ほか, 2012）。



写真 VIII-56
エビチャコモリグモ♂
上原町籠川 2014年2月15日撮影



図 VIII-13 エビチャコモリグモの分布図

シ イサゴコモリグモ *Pardosa isago* Tanaka

体長メス 6.3～8.9mm, オス 5.9～6.4mm. 雌雄とも背甲は灰褐色。腹部は灰褐色ないし灰黄褐色。徘徊性で河原に生息する。徘徊性で動きが素早く、危険を察すると石のすき間に隠れる。本市では旭地区（池嶋町）の矢作川本流で確認された（分布図 VIII-14）。県内では名古屋市・岡崎市・豊川市・豊橋市・新城市で確認された。保全対策として、生息地が河川に限られているので、河川工事には生息地の環境保全が望まれる。国内では本州・四国・九州に分布する（新海ほか, 2012）。



写真 VIII-57 イサゴコモリグモ♂
池嶋町矢作川本流
2008年7月13日撮影

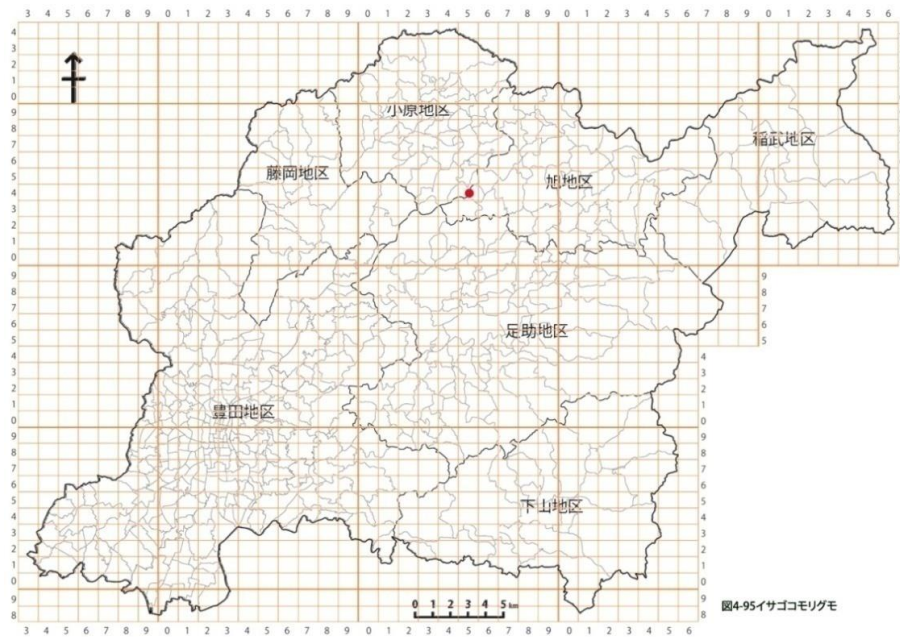


図 VIII-14 イサゴモリグモの分布図

ス シノビグモ *Shinobius orientalis* (Yaginuma)

体長メス 5.0～8.0mm, オス 5.0～6.0mm. 雌雄とも背甲は黄褐色で中央部と両側は濃褐色. 腹部は濃茶褐色で白色の斑紋がある. 徘徊性で山地の源流域に生息する. 本市では足助地区 (川面町・上八木町・御内町)・旭地区 (牛地町)・稲武地区 (稲武町・野入町・黒田町) で確認された (分布図 VIII-15). 県内では北設楽郡設楽町・同郡豊根村 (旧富山村) で確認された. 保全対策として, 生息地が源流域に限られているので, 砂防工事, 河川工事等は生息地の環境保全が望まれる. 国内では北海道・本州・四国に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-58 シノビグモ♀
上八木町足助川 2008年7月21日撮影

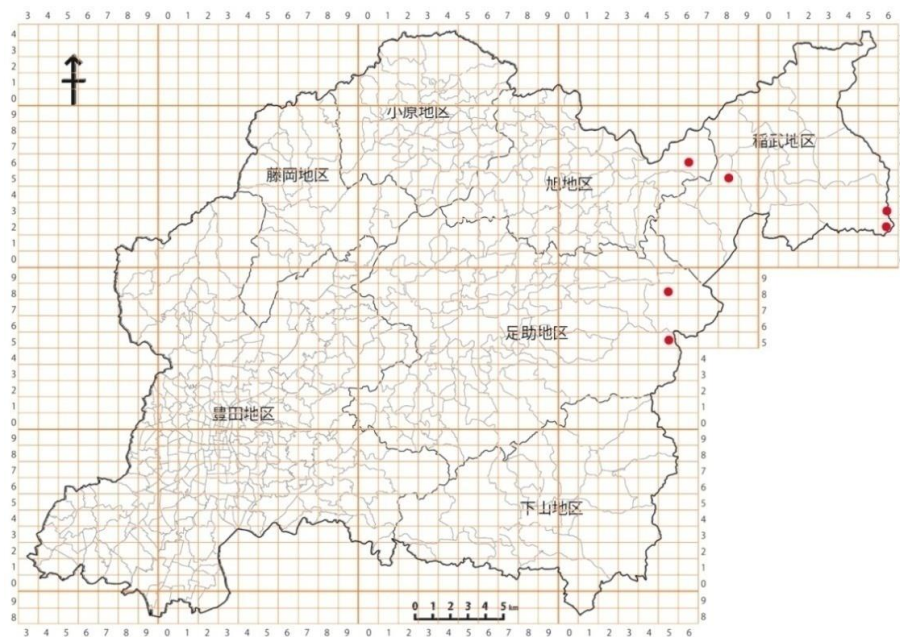


図 VIII-15 シノビグモの分布図

セ カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* Tikuni

体長メス 8.0～13.0mm, オス 2.0～3.0mm. メスの背甲は褐色で黒褐色の斑紋がある. 腹部は茶褐色で赤褐色の瘤が多数ある. 第1・2脚の腿節と膝節が白色が目立つ. 徘徊性で丘陵地や低山に生息する. 本市では豊田地区(猿投町・勘八町・琴平町・東山町・加茂川町)・下山地区(下山田代町)で確認された(分布図 VIII-16). 県内では犬山市・瀬戸市・新城市・北設楽郡東栄町で確認された. 県内からオスは未確認である. 生息地が林縁部の草本類から得られるので, 保全対策として, 生息地の伐採や道路整備等は慎むべきである. 国内では本州(群馬県以内)・四国・九州・沖縄県に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-59 カトウツケオグモ♀
加茂川町 2011年8月9日撮影

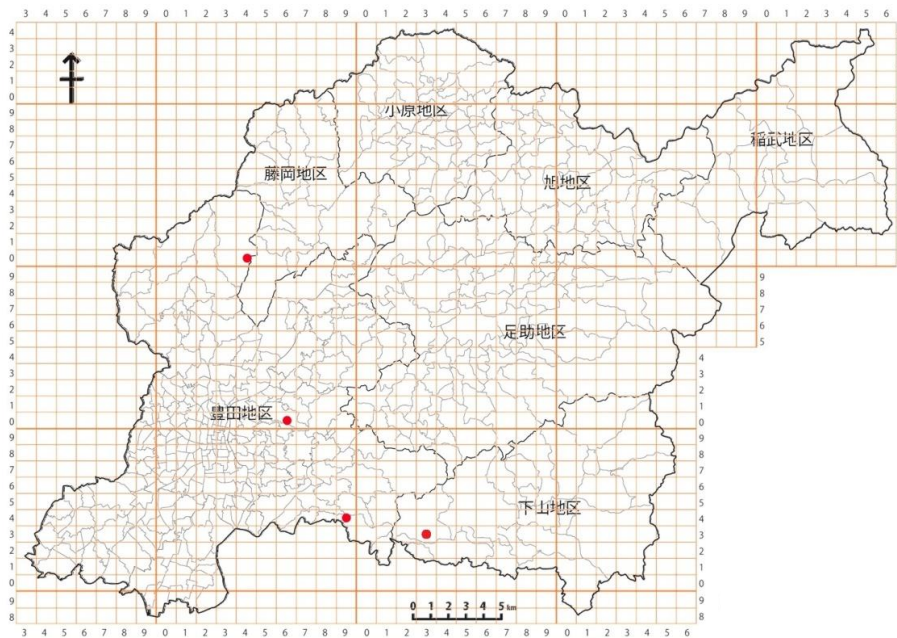


図 VIII-16 カトウツケオグモの分布図

(3) 絶滅危惧 II 類 (VU) : 本市配慮種

ア ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch

体長メス 15.0～20.0mm, オス 5.0～8.0mm. メスの背甲は褐色. 腹部は紫褐色. 太い上顎と長い牙がある. メスの背甲は黒色. 腹部は濃紫褐色. 膝節が白色が目立つ. 住宅地, 公園, 農耕地などに生息する. 地中に棒状の住居を作り, その中に潜んでいる. 本市では豊田地区(猿投町・小坂本町・小坂町・中根町・花園町)で確認された(分布図 VIII-17). 県内では名古屋市・豊明市・刈谷市・安城市・知立市・岡崎市で確認された. 住宅地や公園等にも生息しているので, 保全対策として, 生息地での土地開発や農薬の散布等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-60 ワスレナグモ♀
中根町 2008年9月20日撮影

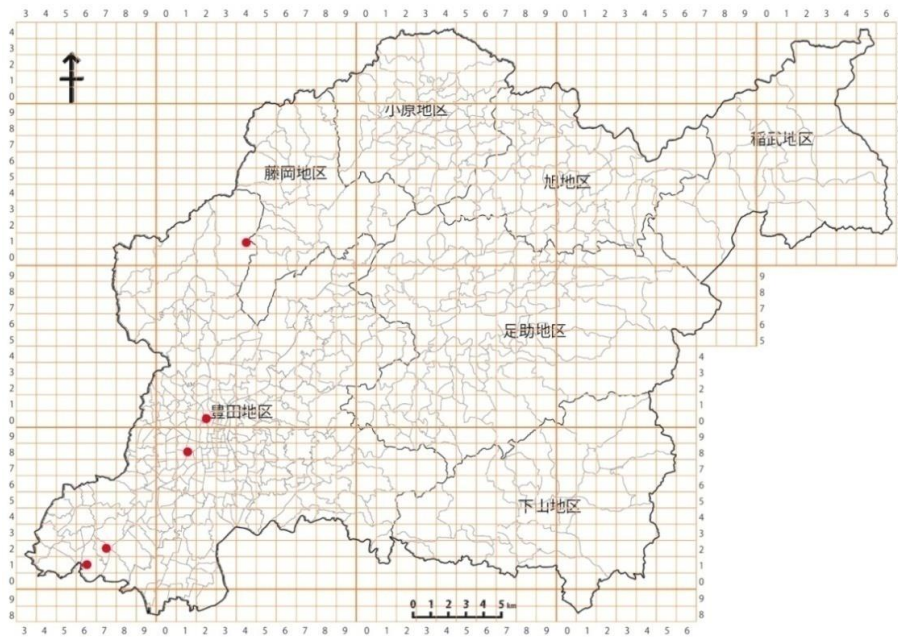


図 VIII-17 ワスレナグモの分布図

イ カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch)

体長メス 12.0～15.0mm, オス 10.0～13.0mm. 雌雄とも背甲は褐色で頭部は黒褐色. 腹部は褐色ないし紫褐色. 丘陵地から山地まで生息する. 崖地の地中に棒状の住居を作り, その中に潜んでいる. 出入りに両開きの扉を付け, 普段は閉じているので見つけにくい. 本市では豊田地区・藤岡地区・小原地区・足助地区・下山地区・稲武地区で確認された (分布図 VIII-18). 県内では犬山市・名古屋市・日進市・岡崎市・豊橋市・北設楽郡等で確認された. 保全対策として, 住宅地や公園等にも生息しているので, 生息地の土地開発や農薬の散布等は慎むべきである. 国内では本州 (兵庫県以北) に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-61 カネコトタテグモ♀
王滝町王滝溪谷 2012年9月30日撮影

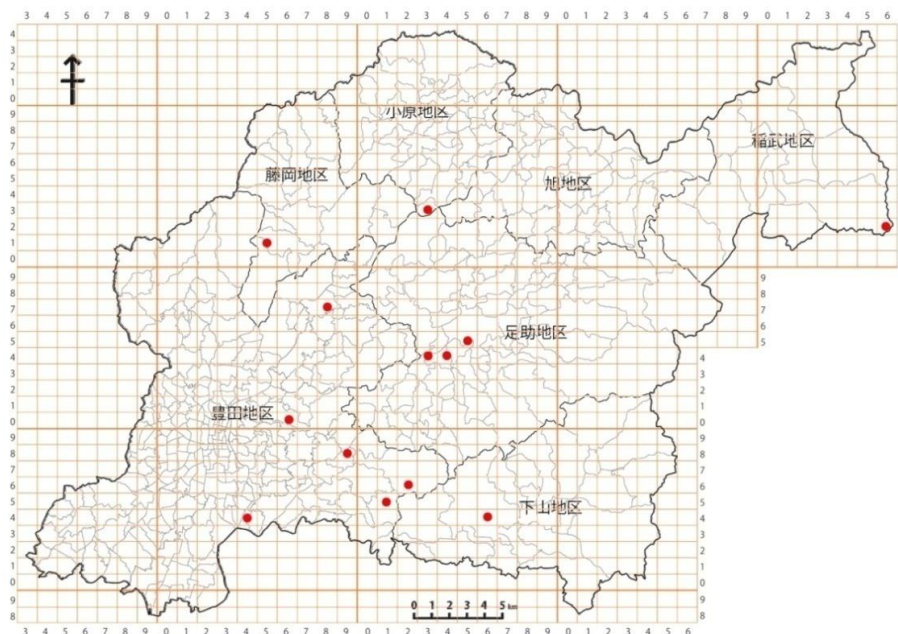


図 VIII-18 カネコトタテグモの分布図

ウ キノボリトタテグモ *Conothele fragaria* (Dönitz)

体長メス 10.0～12.0mm, オス 8.0～10.0mm. 雌雄とも背甲は黒褐色. 腹部は褐色ないし紫褐色ないし黒褐色. 丘陵地から山地まで生息する. 崖地, 石垣, 樹幹などの表面に住居を作り, その中に潜んでいる. 出入りに円形の扉を付け, 普段は閉じているので見つけにくい. 本市では全地区で確認された (分布図 VIII-19). 県内では小牧市・名古屋市・日進市・岡崎市・豊橋市・新城市などで確認された. 保全対策として, 社寺林古木の保護や生息地の伐採, 土地開発等は慎むべきである. 国内では本州 (新潟県以南)・四国・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-62
キノボリトタテグモ♀幼体
伊熊町伊熊神社社叢
2012年9月2日撮影

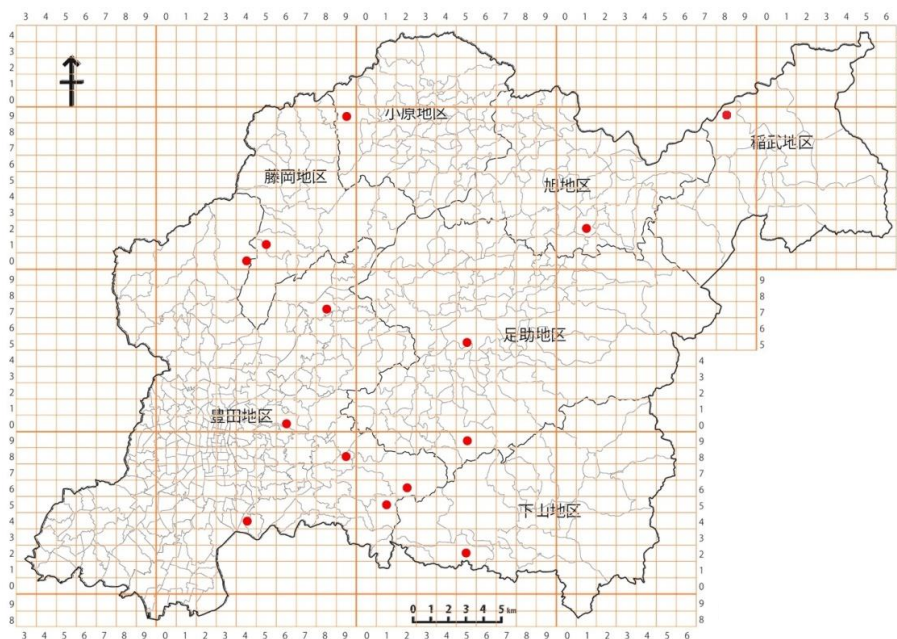


図 VIII-19 キノボリトタテグモの分布図

エ キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida)

体長メス 10.0～12.0mm, オス 8.0～10.0mm. 雌雄とも背甲は黒褐色ないし濃紫色で縁は淡褐色. 腹部は褐色で紫褐色の模様がある. 都市部から低山まで生息する. 崖地, 石垣, 樹根元などの地中に住居を作り, その中に潜んでいる. 出入りに円形の扉を付け, 普段は閉じているので見つけにくい. 本市では豊田地区 (王滝町)・藤岡地区 (西中山町) で確認された (分布図 VIII-20). 県内では犬山市・名古屋市・東海市・日進市・岡崎市・豊橋市で確認された. 保全対策として, 生息地での石垣の修復や崖地の工事開発等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-63
キシノウエトタテグモ♀
西中山町県緑化センター
2013年12月14日撮影

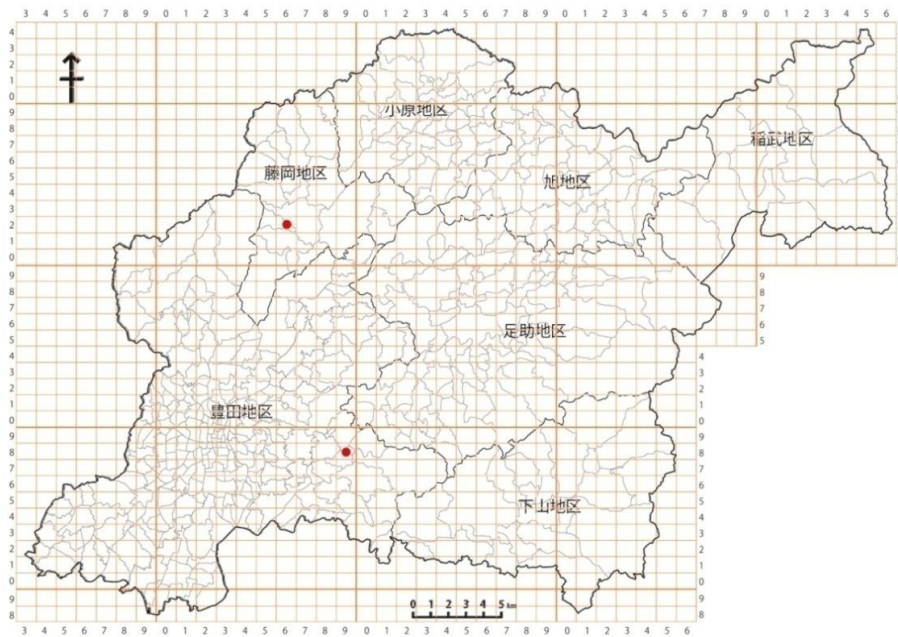


図 VIII-20 キシノウエトタテグモの分布図

オ ニシキオニグモ *Araneus variegatus* Yaginuma

体長メス 12.0～18.0mm, オス 9.0～10.0mm. 雌雄とも背甲は灰黒色で白い毛に覆われる. 腹部は黒褐色で黒色の波模様と黄色や白色の斑紋がある. オスは全体に濃い色彩をしている. 平野部から山地まで生息する. 建物の壁面や枝葉間に垂直円網を張る. 本市では豊田地区 (坂上町)・藤岡地区 (西市野々町)・稲武地区 (黒田町・稲武町) で確認された (分布図 VIII-21). 県内では岡崎市・豊川市 (旧宝飯郡一宮町)・田原市 (旧渥美町)・北設楽郡設楽町で確認された. 保全対策として, 生息地での伐採や林道拡張工事等は慎むべきである. 国内では北海道・本州・四国に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-64 ニシキオニグモ♀
西市野々町
2011年9月24日撮影

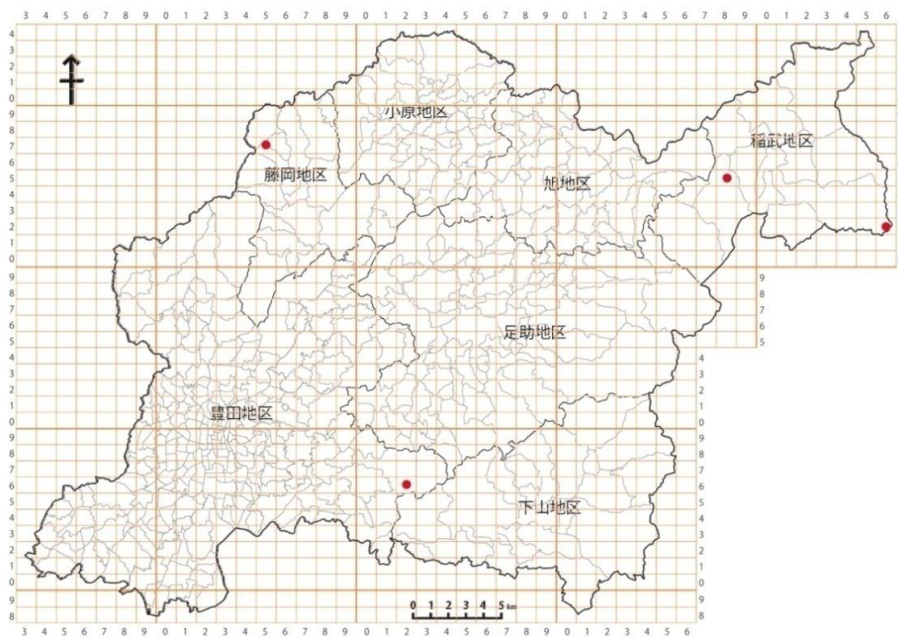


図 VIII-21 ニシキオニグモの分布図

カ トゲグモ *Gasteracantha kuhlii* C. L. Koch

体長メス 6.0~8.0mm, オス 3.0~4.0mm. 雌雄とも背甲は黒色で白い毛が生えている. 腹部は白色で黒色の斑紋があり, メスは縁に 3 対の大小の刺があり, オスは 1 対である. 丘陵地から山地まで生息する. 枝葉間に垂直円網を張る. 本市では足助地区 (足助町・怒田沢町・岩神町)・旭地区 (伊熊町・時瀬町)・稲武地区 (黒田町・川手町) で確認された (分布図 VIII-22). 県内では名古屋市・岡崎市・新城市 (旧新城市・旧鳳来町)・北設楽郡設楽町で確認された. 保全対策として, 生息地での伐採や林道拡張工事等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州・奄美諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-65 トゲグモ♀
伊熊町伊熊神社社叢
2012年9月2日撮影

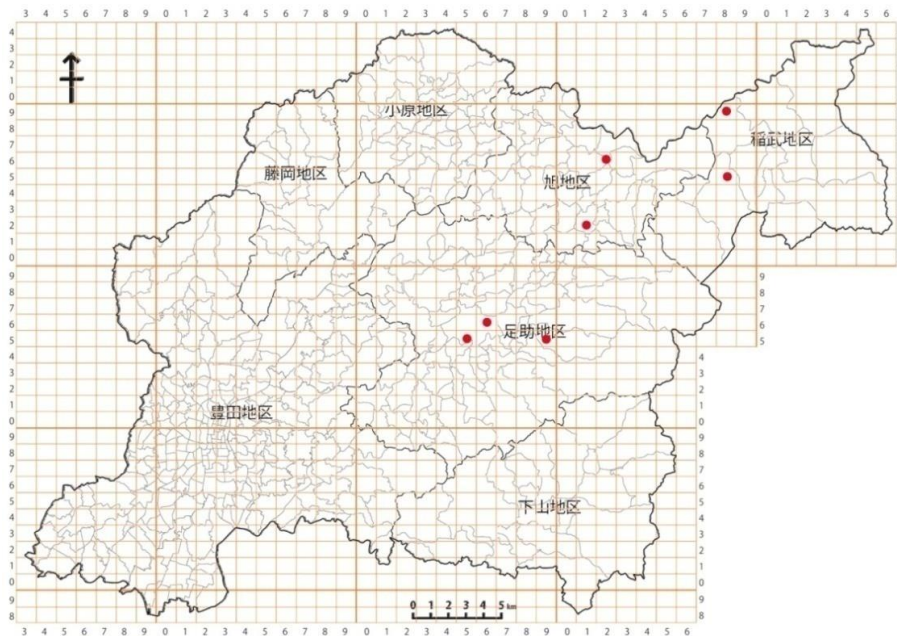


図 VIII-22 トゲグモの分布図

キ ミナミコモリグモ *Piratula meridionalis* (Tanaka)

体長メス 4.8~5.7mm, オス 3.7~4.5mm. 雌雄とも背甲は明茶褐色で頭部に濃茶褐色のV字模様がある. 腹部は茶褐色で 3~4 対の白斑がある. 徘徊性で平地から山地の湿地や湿潤地に生息する. 本市では豊田地区 (王滝町・琴平町・穂積町・西広瀬町)・藤岡地区 (三箇町・藤岡飯野町・上川口町)・小原地区 (大平町)・足助地区 (御内町)・下山地区 (下山田代町) で確認された (分布図 VIII-23). 県内では名古屋市・弥富市・東海市・豊明市・知立市・岡崎市・豊橋市・新城市 (旧鳳来町・旧作手村)・北設楽郡設楽町で確認された. 保全対策として, 湿地の保全と生息地での土地開発等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-66 ミナミコモリグモ♀
西広瀬町 2012年5月22日撮影

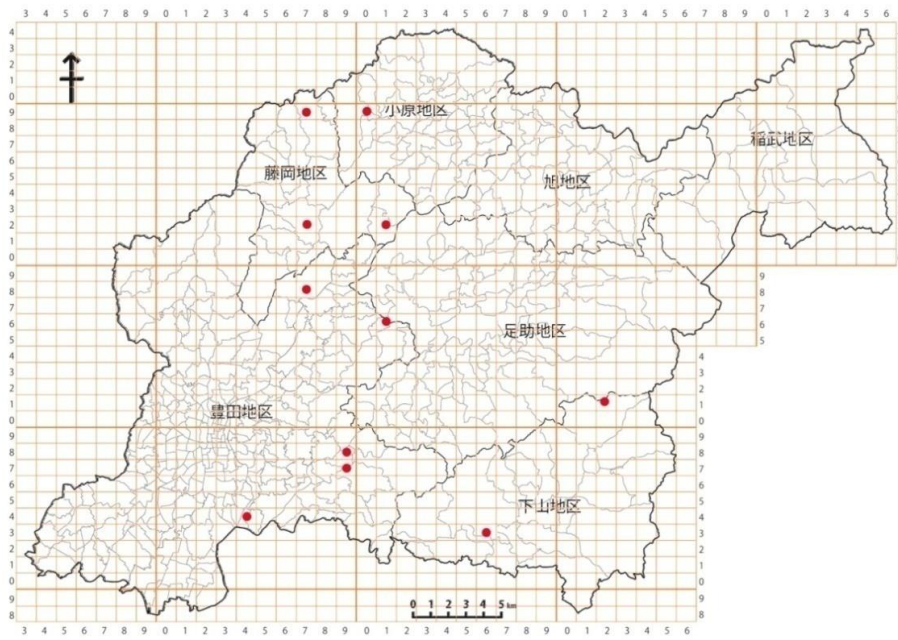


図 VIII-23 ミナミコモリグモの分布図

ク オビジガバチグモ *Castianeira shaxianensis* Gong

体長メス 7.0~8.7mm, オス 6.5~7.0mm. 雌雄とも背甲は灰黒色. 腹部は灰色で前方と中央に灰黒色の条がある. 徘徊性で平地の草地や丘陵地に生息する. 本市では豊田地区 (大清水町・猿投町) で確認された (分布図 VIII-24). 県内では名古屋市・半田市・常滑市・知立市・岡崎市・豊川市で確認された. 保全対策として, 生息地での土地開発等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-67 オビジガバチグモ♀幼体
大清水町 1986年5月4日撮影

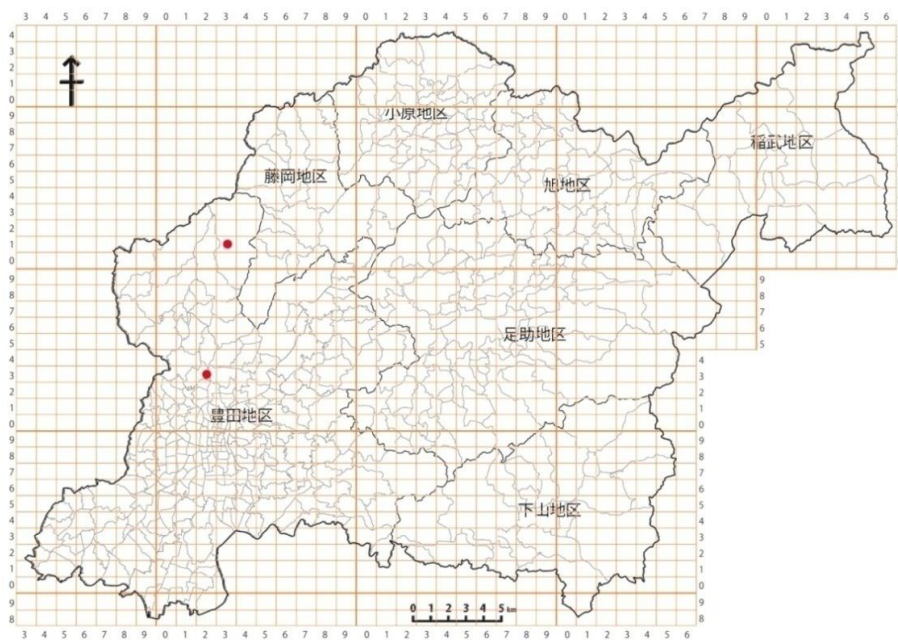


図 VIII-24 オビジガバチグモの分布図

ケ アワセグモ *Selenops bursarius* Karsch

体長雌雄 8.0~12.0mm. 雌雄とも背甲は茶褐色で白色の毛が生えている. 腹部は褐色で茶褐色の斑紋がある. 体形は扁平で樹皮のすき間に潜んでいる. 本市では豊田地区(猿投町・千鳥町)で確認された(分布図 VIII-25). 県内では岡崎市・豊川市で確認された. 全て神社仏閣境内の大木から確認された. 保全対策として, 生息木の保護をすると同時に, 殺虫剤の散布は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-68 アワセグモ♀
猿投町猿投神社 2012年7月14日撮影

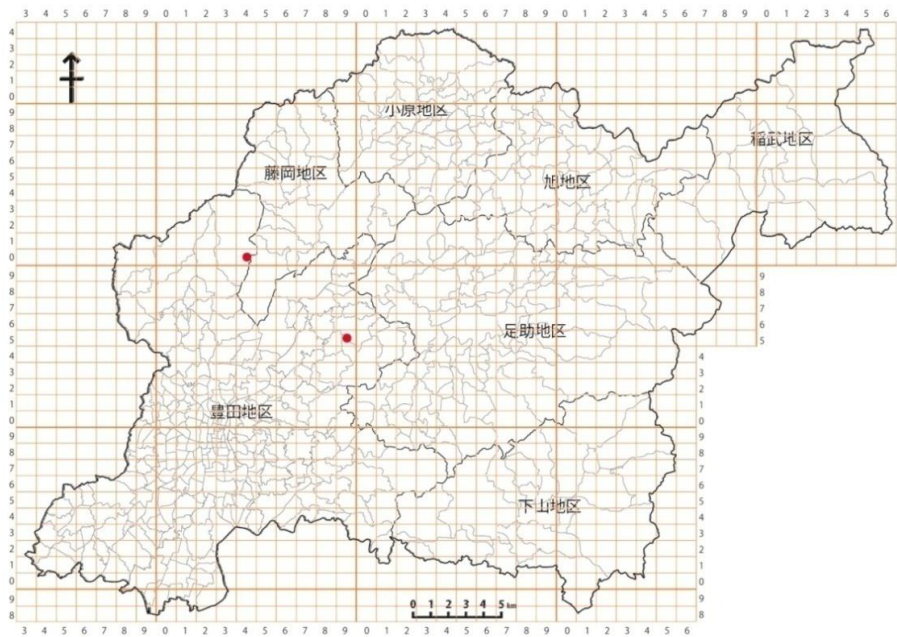


図 VIII-25 アワセグモの分布図

コ アシナガカニグモ *Heriaeus mellottei* Simon

体長メス 6.0~7.6mm, オス 4.5~4.9mm. 雌雄とも背甲は淡緑色で白色の毛が生えている. 腹部は黄緑色で白色の斑紋と毛が生えている. 徘徊性で平地から山地の草地に生息する. 本市では豊田地区(琴平町・西広瀬町・加茂川町)・足助地区(川面町)・下山地区(下山田代町)・旭地区(伊熊町)で確認された(分布図 VIII-26). 県内では小牧市・岡崎市・新城市(旧鳳来町)で確認された. 保全対策として, 生息地での草刈り, 殺虫剤の散布, 道路工事等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する(新海ほか, 2012).



写真 VIII-69 アシナガカニグモ♀
加茂川町 2013年7月6日撮影

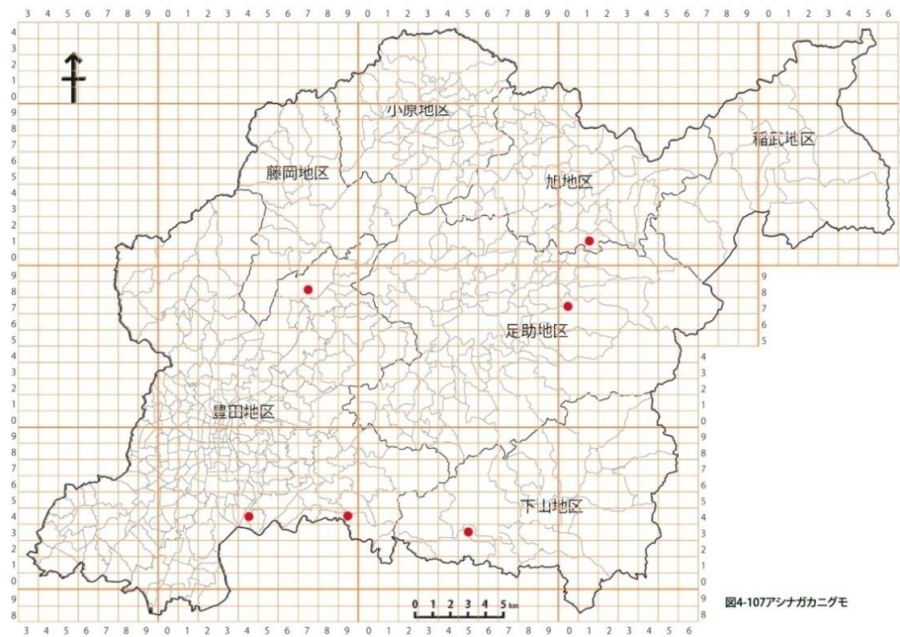


図4-107アシナガカニグモ

図 VIII-26 アシナガカニグモの分布図

サ オビボソカニグモ *Xysticus trizonatus* Ono

体長メス 5.0～8.0mm, オス 4.0～5.0mm. メスの背甲中央部は茶褐色で両縁は濃褐色. 腹部は褐色で白色と黒色の斑紋がある. オスの背甲は黒褐色. 腹部は濃褐色で白色と黒色の斑紋がある. 徘徊性で樹幹に生息する. 本市では足助地区 (大多賀町)・下山地区 (阿蔵町・大沼町・蘭町) で確認された (分布図 VIII-27). 県内では名古屋市・知立市・安城市・岡崎市・北設楽郡設楽町・北設楽郡豊根村で確認された. 保全対策として, 生息木の保護と殺虫剤の散布等は慎むべきである. また, 松のコモ巻き内で越冬するので, マツカレハなどの松の害虫のみを焼却することが望ましい. 国内では北海道・本州・四国に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-70
オビボソカニグモ♀幼体
蘭町 2014年3月19日撮影

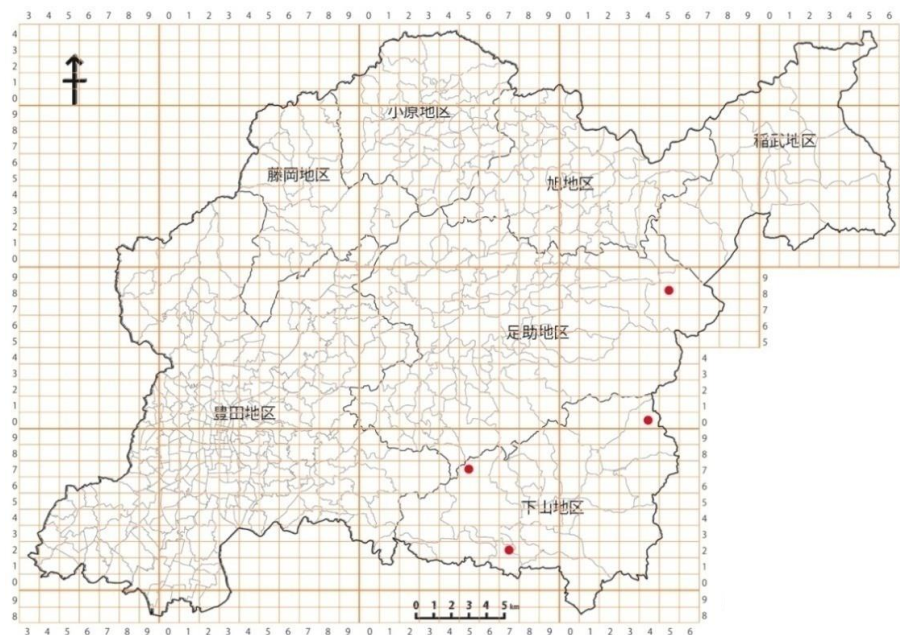


図 VIII-27 オビボソカニグモの分布図

(4) 準絶滅危惧 (NT) : 本市配慮種

ア コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch

体長メス 20.0~30.0mm, オス 5.0~7.0mm. メスの背甲は淡色で白色の毛が生えている. 腹部は黒色と黄色の太い横斑と白斑がある. オスの背甲は淡褐色で白色の毛が生えている. 腹部は褐色で濃褐色の斑紋がある. 平地から山地の草地に生息する. 本市では豊田地区・藤岡地区・足助地区・下山地区・稲武地区で確認された (分布図 VIII-28). 県内では名古屋市・知多郡美浜町・常滑市・知立市・安城市・岡崎市・豊橋市などで確認された. 保全対策として, 生息地の草刈り, 宅地開発, 殺虫剤の散布等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-71 コガネグモ♀
三箇町 2009年7月4日撮影

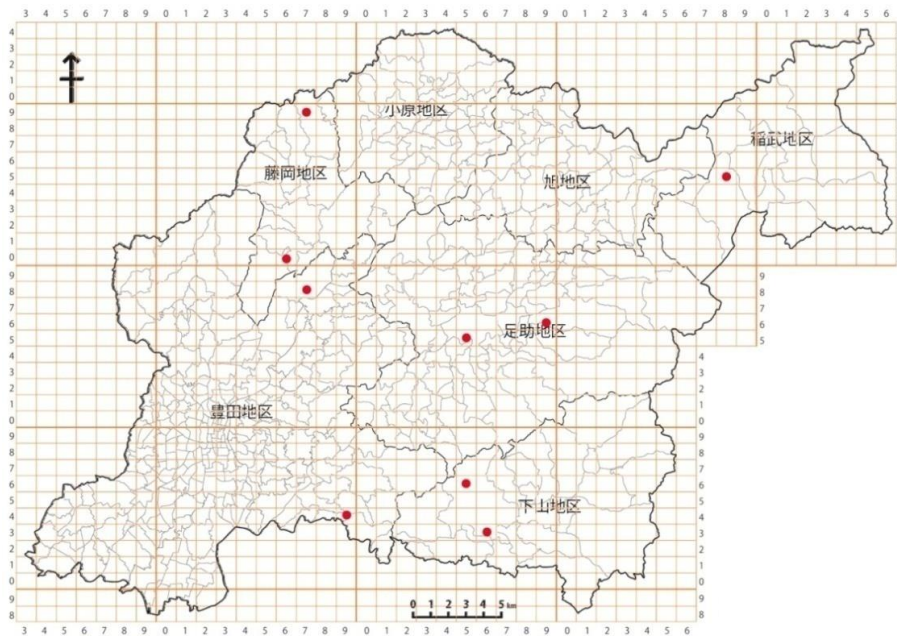


図 VIII-28 コガネグモの分布図

イ オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne akirai* Tanikawa

体長メス 10.0~13.0mm, オス 2.0~2.5mm. メスの背甲は明茶色. 腹部は黄褐色で両側に1対の丸い斑紋がある. オスの背甲は茶褐色. 腹部は黄褐色で前方が濃褐色. 平地から山地の林縁部や草地に生息し, 夜間に同心円網を張る. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区・足助地区・下山地区・稲武地区で確認された (分布図 VIII-29). 県内では名古屋市・常滑市・豊明市・岡崎市・豊橋市・北設楽郡設楽町などで確認された. 保全対策として, 生息地の草刈り, 宅地開発, 殺虫剤の散布等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-72
オオトリノフンダマシ♀
御内町田之土里湿原
2008年9月6日撮影

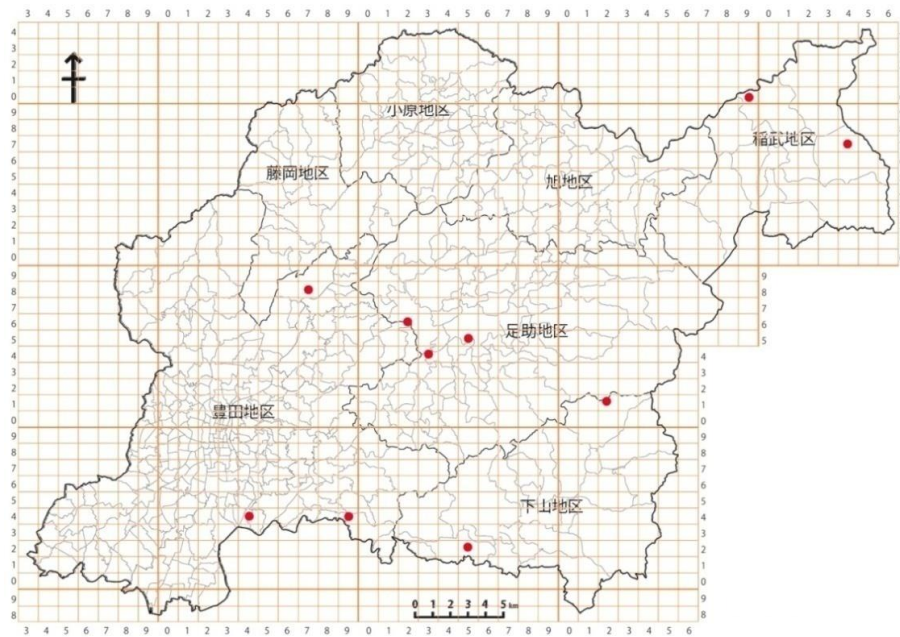


図 VIII-29 オオトリノフンダマシの分布図

ウ トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (Bösenberg & Strand)

体長メス 8.0~10.0mm, オス 1.0~2.5mm. メスの背甲中央部は濃茶色で縁は茶褐色. 腹部は白色で前方が明褐色で両側に 1 対の丸い斑紋がある. オスの背甲は茶褐色. 腹部は黄褐色で前方が濃褐色. 平地から山地の林縁部や草地に生息し, 夜間に同心円網を張る. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区・足助地区・下山地区・旭地区・稲武地区で確認された (分布図 VIII-30). 県内では名古屋市・常滑市・豊明市・岡崎市・豊橋市・北設楽郡設楽町などで確認された. 保全対策として, 生息地の草刈り, 宅地開発, 殺虫剤の散布等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-73 トリノフンダマシ♀
御内町田之土里湿原
2008年9月6日撮影

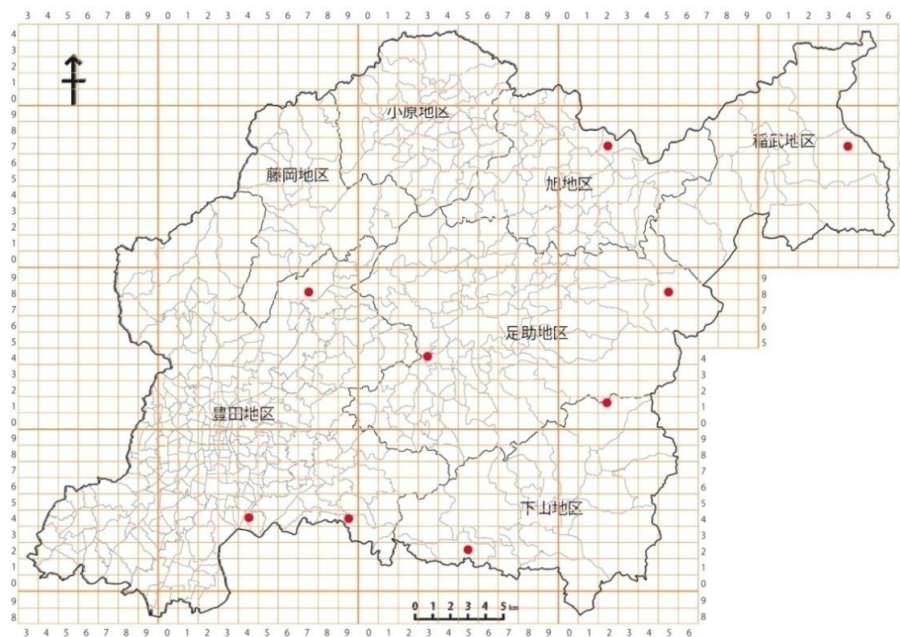


図 VIII-30 トリノフンダマシの分布図

エ シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand

体長メス 5.0~8.0mm, オス 1.0~2.0mm. 白帯型のメス
 背甲は濃茶色. 腹部は濃茶色で前方に幅広い白色の横条がある. 後方は赤褐色もしくは黄褐色. 腹部の白帯のない個体や, 全体に黒色の個体等色彩変異がある. オスの背甲は濃褐色. 腹部は茶褐色で黒色の瘤がある. 平地から山地の林縁部や草地に生息し, 夜間に同心円網を張る. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区・藤岡地区・足助地区・下山地区で確認された (分布図 VIII-31). 県内では犬山市・名古屋市・常滑市・豊明市・岡崎市・豊橋市・北設楽郡設楽町などで確認された. 保全対策として, 生息地の草刈り, 宅地開発, 殺虫剤の散布等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-74
 シロオビトリノフンダマシ♀
 幸海町 2013年8月4日撮影

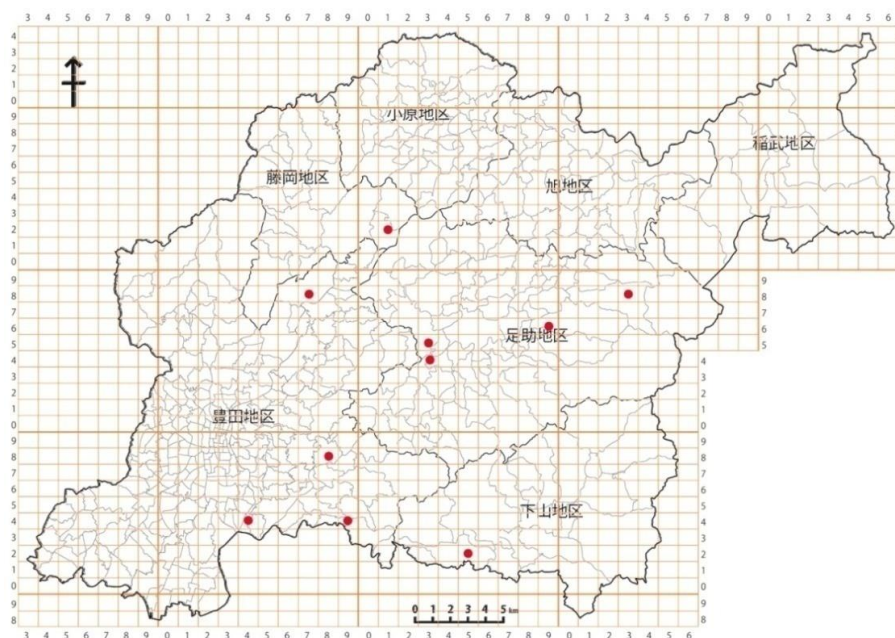


図 VIII-31 シロオビトリノフンダマシの分布図

オ アカイロトリノフンダマシ *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand

体長メス 4.5~7.0mm, オス 1.5~2.0mm. 赤色型のメス
 背甲は濃赤色. 腹部は赤褐色で白色斑紋があり, 前方両側に1対の黒色の斑紋がある. 全体に黒色の個体や黒色と赤色の染め分け等色彩変異がある. オスの背甲は濃褐色. 腹部は茶褐色で黒色の瘤がある. 平地から山地の林縁部や草地に生息し, 夜間に同心円網を張る. 日中は葉裏に静止する. 本市では豊田地区・藤岡地区・足助地区・下山地区・旭地区・稲武地区で確認された (分布図 VIII-32). 県内では犬山市・名古屋市・日進市・岡崎市・豊川市・北設楽郡設楽町などで確認された. 保全対策として, 生息地の草刈り, 宅地開発, 殺虫剤の散布等は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州・薩南諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-75
 アカイロトリノフンダマシ♀
 穂積町 2013年8月4日撮影

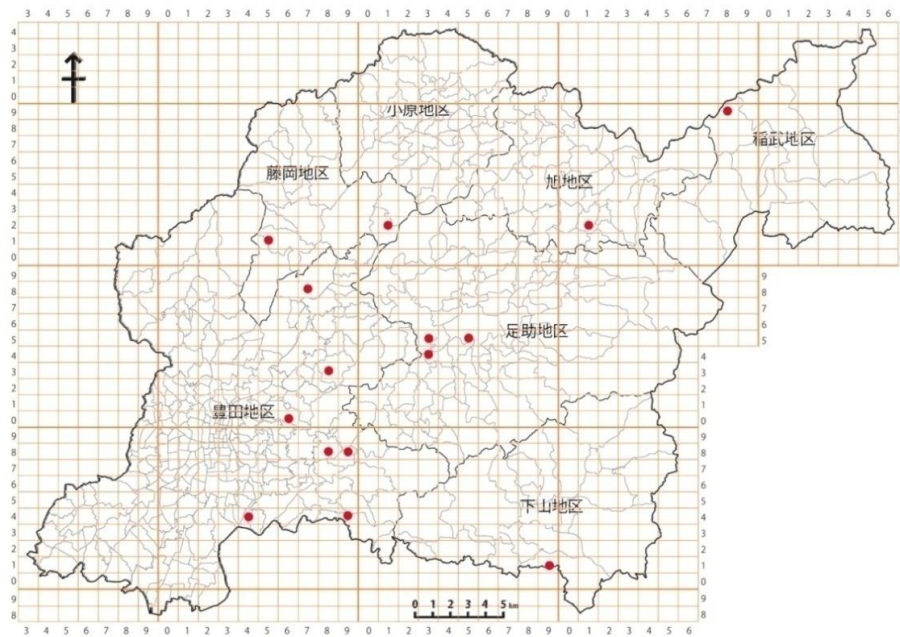


図 VIII-32 アカイロトリノフンダマシの分布図

カ ゲホウグモ *Polrys illepidus* C. L. Koch

体長メス 12.0～16.0mm, オス 2.0～3.0mm. メスの背甲は赤褐色. 腹部は赤褐色, 濃褐色, 褐色, 白色など複雑な斑紋と大小の瘤がある. オスの背甲は濃茶色. 腹部は茶褐色でメスのような瘤はない. 平地から山地の林縁部や果樹園などに生息し, 夜間に水平円網を張る. 日中は木の枝先や樹幹などに静止し, 木の瘤そっくりに擬態する. 本市では豊田地区・藤岡地区・足助地区で確認された (分布図 VIII-33). 県内では名古屋市・常滑市・岡崎市・豊川市・新城市などで確認された. 保全対策として, 生息地の伐採は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布する (新海ほか, 2012).



写真 VIII-76 ゲホウグモ♂
穂積町 2014年2月21日撮影

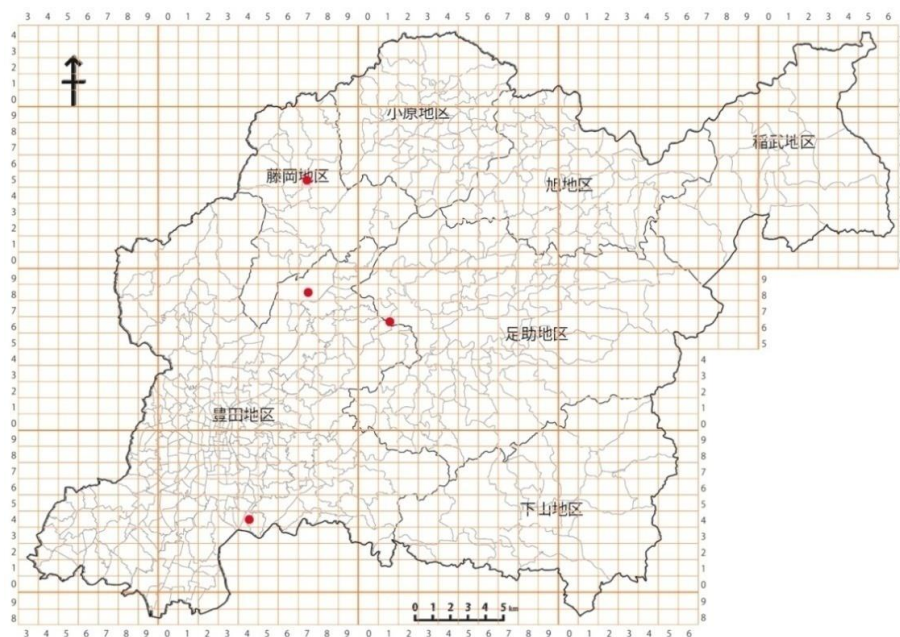


図 VIII-33 ゲホウグモの分布図

8 豊田市で確認された外来種

(1) セアカゴケグモ *Latrodectus hasselti* Thorell

原産地：オーストラリア

体長メス 7.0~10.0mm, オス 3.5~6.5mm. メスの背甲は黒色. 腹部上面は黒色ないし茶褐色で中央から後方に赤色の斑紋が顕著である. 腹部下面にも砂時計型の赤色の斑紋がある. オスの背甲は濃褐色. 腹部は白色で茶褐色の斑紋がある. 移入経路は, 貨物や建設資材に付着して海外から持ち込まれた可能性が高い. 国内では 1995 年に大阪府で発見された. メスは毒性が強く特定外来生物, 日本ワースト 100 に指定されている. 生息場所は建物の外壁や側溝など,



写真 VIII-77 セアカゴケグモ♀
鞍ヶ池パーキングエリア内
2014年8月30日撮影

人目につきにくい場所に不規則網を張り隅に潜んでいる. 本市では 2014 年 8 月に豊田地区矢並町地内の東海環状線下り線「鞍ヶ池パーキングエリア」内で発見された (分布図 VIII-34). その後, 速やかに駆除された. 県内では尾張地方や知多半島では広範囲から発見されている. 三河地方では西尾市・岡崎市・豊橋市・田原市で発見された. 対策としては, 速やかに保健所や市役所など関係部署に連絡し, 目視による徹底した採集に努める. 生息地には在来種のクモ類も生息しているので, 殺虫剤の使用は慎むべきである. 国内では本州・四国・九州に分布する (清水ほか, 2014).

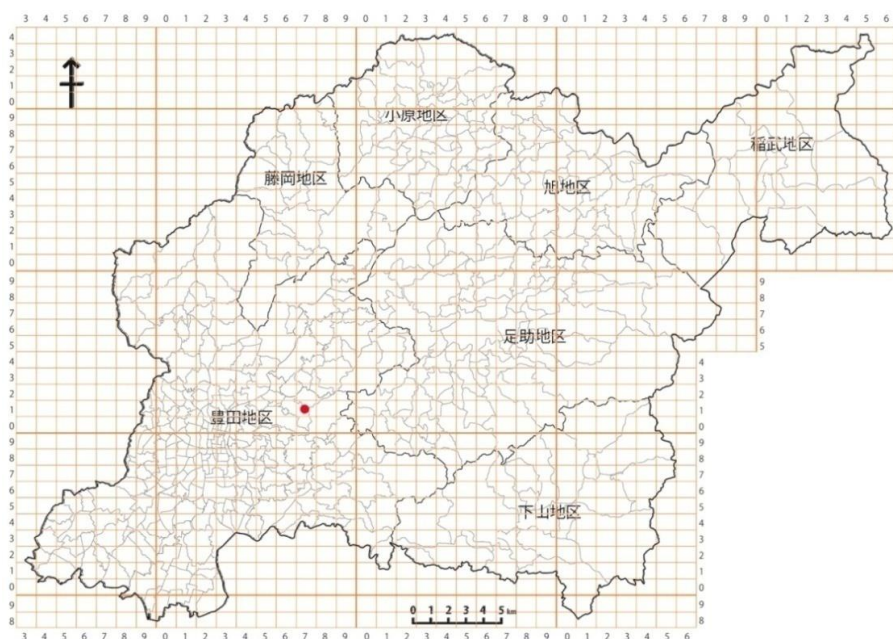


図 VIII-34 セアカゴケグモの分布図

(2) シロホシヒメグモ *Steatoda grossa* (C. L. Koch)

原産地：最初の発見地はギリシャで世界的な分布を示す (吉田, 2003).

体長メス 7.5~11.0mm, オス 4.0~7.5mm. メスの背甲は濃茶褐色. 腹部は黒茶褐色で黄色ないし白色の斑紋があるが, 無紋の個体もいる. オスの背甲は赤褐色. 腹部は黒茶褐色で黄色ないし白色の斑紋がある. 移入経路は, 外国から持ち込まれた種と考えられる (吉田, 2003). 生息場所は家屋内外・側溝内・排水溝・植木鉢の底部など, 人目につきにくい場所に不規則網を張る. 同所的に生息する在来種のイエユレイグモ・オオヒメグモとの競合も報告されていないので, 駆

除の必要はないと考えられる。本市では1990年12月1日に豊田地区堤町でオスが発見された（分布図 VIII-35）。この1例だけである。県内では名古屋市・刈谷市・岡崎市・豊橋市などで発見された。国内では本州・四国・九州に分布する（新海ほか，2012）。



写真 VIII-78 シロホシヒメグモ♂
堤町 1990年12月1日撮影

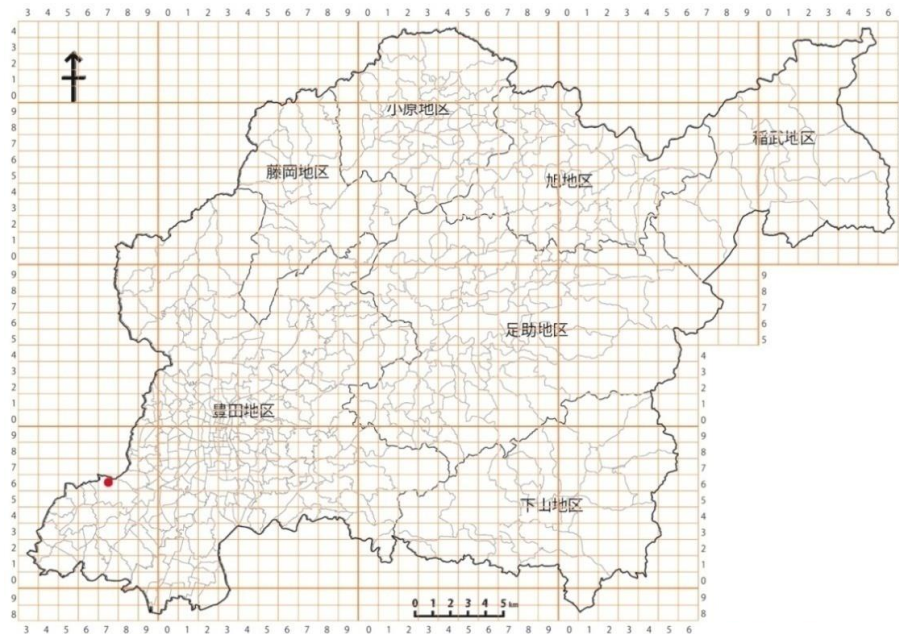


図 VIII-35 シロホシヒメグモの分布図

(3) マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* (Walckenaer)

原産地：最初の発見地はフランスで南ヨーロッパ・北アメリカ・中国など（吉田，2003）。

体長メス 3.6～6.4mm，オス 3.5～4.7mm。雌雄とも背甲は濃赤褐色。腹部は黄白色ないし淡色で茶褐色ないし黒色の斑紋がある。しばしばセアカゴケグモと誤認される。1981年11月18日に蒲郡市の飼料工場内で、オダカユウレイグモと同時に採集されたのが国内初記録である（八木沼，1982）。移入経路は、外国から飼料などに紛れ込んで持ち込まれたと考えられる。生息地場所や生態等はほぼ同じなので、駆除の必要はないと考えられる。本市では豊田地区（水源町・大林町・堤町・西山町・花園町）で発見された（分布図 VIII-36）。県内では碧南市・名古屋市・豊田市・安城市・豊橋市など相次いで発見された。国内では本州・四国・九州に分布する（新海ほか，2012）。



写真 VIII-79 マダラヒメグモ♀
花園町 2010年8月31日撮影

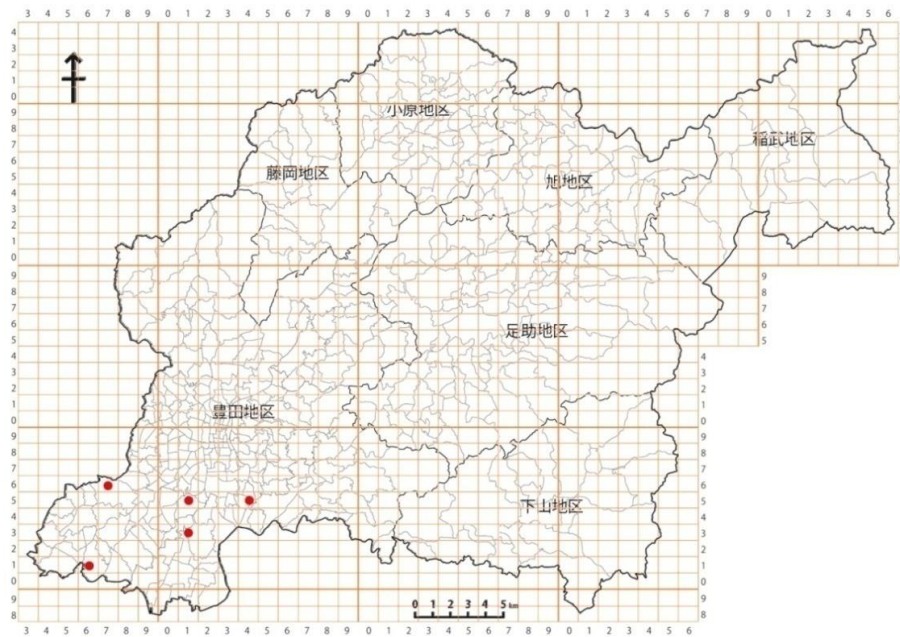


図 VIII-36 マダラヒメグモの分布図

(4) クロガケジグモ

原産地：オーストラリア・タスマニア・ニュージーランド。

体長メス 10.0～15.0mm，オス 4.5～10.0mm。雌雄とも背甲は灰黒色。腹部は灰黒色で幼体は褐色の斑紋がある。国内での初記録は、1963 年に大阪府で発見された。交通機関による人為移入であろう（八木沼，1976）。生息場所は建物の外壁・ガードレール・フェンス・橋の欄干・自動車のボディのすき間・樹幹の窪みなどに管状住居を作りそこからボロ網を張る。同所的に生息する在来種のイエユレイグモ・オオヒメグモ・アシダカグモなどとの競合も報告されていないので、駆除の必要はないと考えられる。本市では豊田地区（西田町・水源町・高岡本町・中根町・清水町・花園町）と稲武地区（大野瀬町）で発見された（分布図 VIII-37）。大野瀬町は自動車による人為分布である。県内では名古屋市・大府市・知立市・岡崎市・豊橋市などから発見されている。国内では本州（千葉県以南）・四国・九州に分布する（新海ほか，2012）。



写真 VIII-80
クロガケジグモのボロ網
花園町 2009 年 1 月 27 日撮影



写真 VIII-81 クロガケジグモ♀
中根町 2008 年 9 月 12 日撮影

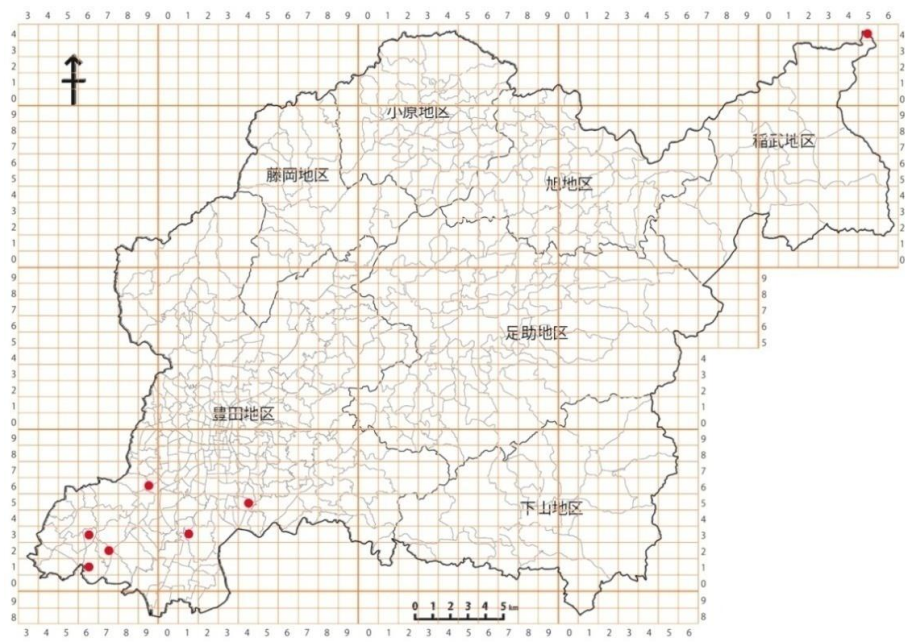


図 VIII-37 クロガケジグモの分布図

9 謝辞

報告にあたり、御教示と同定をいただいた池田博明氏、入江照雄氏、小野展嗣博士、加村隆英博士、斎藤 博氏、須黒達己氏、田中穂積博士、谷川明男博士、西川善朗博士、吉田 哉博士に感謝の意を表す。また、貴重な標本を恵与していただいた大原満枝氏、杉山時雄氏、戸田尚希氏、間野隆裕氏、矢崎充彦氏に心からお礼申し上げる。

10 引用・参考文献

- 愛知県環境調査センター（編）（2009）愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レットデータブックあいち2009 ー動物編ー。愛知県。651pp.
- 愛知県企画部統計課（1996）あいちの人口 市区町村別推計人口と世帯数。愛知県。221pp.
- 千国安之輔（2008）写真日本クモ類大図鑑。偕成社。308pp.
- Irie, T. and Ono, H. (2007) Two New Species of the Genus *Falcileptoneta* (Arachnida, Araneae, Leptonetidae) Collected from Chubu District, Honchu, Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 33(4): 175-180.
- Kobayashi, H. (1973) Two New J Species of the Genus *Sarutana* (Leptonetidae:Araneae) from Shizuoka Prefecture, Japan. *Acta arachnol.*, 25: 1-9.
- Logunov, D. V., Ikuda, H. and Ono, H. (1997) Jumping Spiders of the Genera *Harmochirus*, and *Stertinius* (Arachnida, Salticidae) from Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 23(1): 1-16.
- Nishikawa, Y. (2009) A New Genus and 44 New Species of the Family Coelotidae (Arachnida, Araneae) from Japan. The spiders of Japan, Ono, H. (ed.): 51-70. Tokai University Press.
- 緒方清人（1985）猿投山の真正蜘蛛目録。蜘蛛，20：6-8.
- 緒方清人（1995）マダラヒメグモを愛知県で採集する。蜘蛛，28：29-30.
- 緒方清人（1996a）クモ類。稲武町史 自然 資料編，稲武町教育委員会（編）：127-146. 稲武町.
- 緒方清人（1996b）真正クモ類。設楽町誌 自然編 資料編，設楽の自然調査会：234-266. 設楽町.
- 緒方清人（1998）愛知県におけるチクニドヨウグモの分布。蜘蛛，30：39-40.
- 緒方清人（2005a）鳳来寺山で記録されたツシマトリノフンダマシについて。鳳来寺山自然科学博物館館報，34：5-8.
- 緒方清人（2005b）クモ類。豊田市自然環境基礎調査報告書<資料編>，豊田市自然環境基礎調査会：79-104. 豊田市.
- 緒方清人（2008）愛知県産クモ目録，kishidaia，94：82-98.
- 緒方清人（2009）愛知県産クモ目録追加種。蜘蛛，42：24.
- 緒方清人（2010）愛知県産クモ目録（II）追加と削除ならびに変更と改称。蜘蛛，43：33-35.
- 緒方清人（2011a）愛知県内におけるムシバミコガネグモの記録。蜘蛛，44：40-45.
- 緒方清人（2011b）愛知県産クモ目録 追加種（III）。蜘蛛，44：52-54.
- 緒方清人（2012）愛知県産クモ目録 追加種（IV）。蜘蛛，45：14-16.
- 緒方清人（2013a）愛知県産クモ目録 追加種（V）。蜘蛛，46：26-28.
- 緒方清人（2013b）津市鳥居町と分部のクモ類。しのびぐも，40：31-36.
- 緒方清人（2014a）愛知県におけるツシマトリノフンダマシの記録。蜘蛛，47：42-43.
- 緒方清人（2014b）愛知県産クモ類目録 追加種（VI）。蜘蛛，47：55-57.

- 小野展嗣 (編) (2009) 日本産クモ類. 東海大学出版会. 738pp.
- Ono, H. (2010) Two New Spiders of the Families Anapidae and Clubionidae (Arachnida, Araneae) From Japan Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 36(1): 1-6.
- Ono, H. (2011) Notes on Japanese Spiders of the Genera *Paikiniana* and *Solenysa* (Araneae, Linyphiidae) Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 37(3): 121-129.
- Ono, H. and Saito, H. (2001) New Genera and Species of the Spider Familie Linyphiidae (Arachnida, Araneae) from Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, 27(1): 1-59.
- Saito, H. (1992) New Linyphiid Spider of the Genus *Arcuphantes* (Araneae: Linyphiidae) From Japan. *Korean arachnol.*, 8(1・2): 13-31.
- 清水裕行・金沢 至・西川善朗 (2014) 日本のゴケグモ 5 種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. 大坂市立自然史博物館研究報告, 68: 41-51.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 (2012) CD 日本のクモ. 自刊.
- 新海栄一 (2010) ネイチャーガイド 日本のクモ. 文一総合出版. 335pp.
- 谷川明男 (2007) 日本産コガネグモ科・ジョロウグモ科・アシナガグモ科のクモ類の同定の手引き. 日本蜘蛛学会. 121pp.
- Tatsumi, S. (2014) Japanese spiders of the Genus *Chinattus* (Araneae: Salticidae) *Acta arachnol.*, 63(1): 7-14.
- 豊田市市史編集委員会 (2011) 豊田市のあゆみ. 豊田市. 450pp.
- 八木沼健夫 (1976) 日本で発見されたオーストラリア区のクモ. 追手門学院大学文学部紀要. 8(2): 170-175.
- 八木沼健夫 (1981) 不連続分布するクモ数種について. Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 36(6): 39-47.
- 八木沼健夫 (1982) オダカユウレイグモ日本で発見. *atypus*, 80: 15:18.
- 八木沼健夫 (1986) 原色日本クモ類図鑑. 保育社. 305pp.
- 吉田 哉 (2003) 日本産ヒメグモ科総説. 日本蜘蛛学会. 233pp.
- 吉鶴靖則・川田奈穂子・小出恭章 (2011) 豊田市自然観察の森及び周辺地域における希少クモの記録. 三河生物, 2: 43-46.

(緒方清人)